

資料編目次

1. 第1章にて分析した訓練校所在地の工業の概要	113
1-1 図 A校が所在するA市の工業の概要	113
1-2 図 B校が所在するB市の工業の概要	113
1-3 図 C校が所在するC市の工業の概要	114
1-4 図 D校が所在するD市の工業の概要	114
1-5 図 E校が所在するE市の工業の概要	115
1-6 図 F校が所在するF市の工業の概要	115
1-7 図 G校が所在するG市の工業の概要	116
2. 電気機器科の訓練に関するアンケート	117
3. 電気機器科指導員に対するアンケート	121
3-1 図 内容の統一化と目標決定の関連	126
3-2 図 内容選定と目標決定の関連	126
3-3 図 実習の位置づけ(1)	127
3-4 図 実習の位置づけ(2)	127
4. 長崎総高訓電気機器科をとりまく情況	128
(1) 地域の情況	128
4-1-1 表 県内主要経済指標	128
4-1-2 表 産業別統計の前年対比	128
4-1-3 表 長崎県工業生産指数	129
4-1-4 表 諫早市工業の推移	129
4-1-5 表 諫早市工業の業種別事業所・従業者数	129
4-1-6 表 過去10年間の中学校卒業生	130
4-1-7 表 中学校卒業生の年次別進路別動向	130

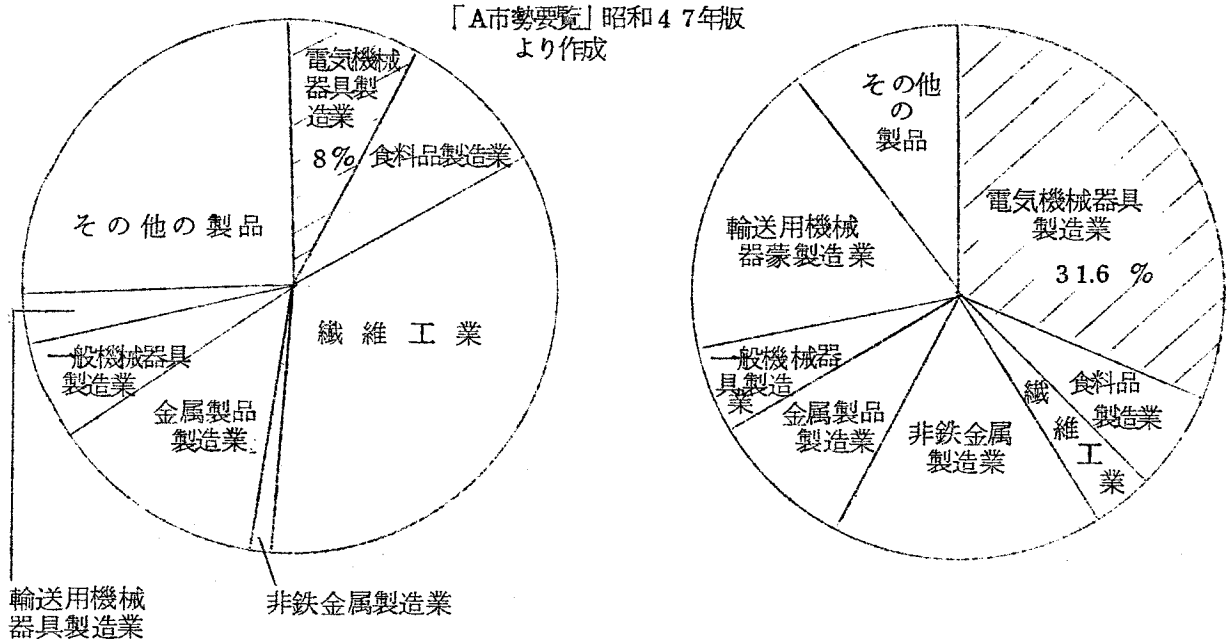
4-1-8表	中学校卒業生の推移(公立)	131
4-1-9表	中学校卒業者の高校進学率の推移	132
4-1-10表	高等学校の年次別卒業者	133
4-1-11表	高等学校卒業者の年次別進路別動向	134
4-1-12表	高等学校進学率向上のための措置について	134
4-1-13図	長崎県公共職業訓練施設配置図	135
(2)	沿革と構成	136
4-2-1	沿革	136
4-2-2図	校内配置図	136
4-2-3図	組織	137
4-2-4表	職員構成	137
4-2-5表	訓練コース	137
4-2-6表	電気機器科指導員構成	138
(3)	訓練生の実態	138
4-3-1表	年次別応募・入校者数	138
4-3-2表	年次別市郡別応募者数	138
4-3-3表	年次別入校生知能偏差値	139
4-3-4図	入校生SS年次変化	139
4-3-5表	年次別入校生性向性段階	140
4-3-6表	年次別入校生クレペリン検査段階	140
4-3-7図	47年度入校生個性プロフィール	141～142
4-3-8表	47年度入校生Y-G検査類型別分布	143～144
4-3-9図	47年度入校生数学力プロフィール	143～144
4-3-10図	47年度入校生読書力プロフィール	143～144
4-3-11表	47年度入校生レディネステスト結果	145

4-3-12 図	47年度入校生レディネステストH得点分布	145
4-3-13 図	47年度入校生レディネステスト 領域別プロフィール	145
4-3-14 表	テスト間相関係数	145
4-3-15 表	年次別入校生体位	146
4-3-16 表	年次別入校生体力診断テスト結果	147
4-3-17 表	年次別入校生運動能力テスト結果	148
4-3-18 表	47年度入校生の保護者の平均収入	148
4-3-19 図	47年度入校生の保護者の平均収入段階分布	148
4-3-20 表	訓練生入校動機	149
4-3-21 表	電気機器科選科動機	151
4-3-22 表	年次別電気工事の試験合格者数	152
4-3-23 図	46年度修了生個性プロフィール	153 ~ 154
4-3-24 表	46年度修了生Y-G性格検査類型別人数	155 ~ 156
4-3-25 図	46年度修了生読書力プロフィール	155 ~ 156
4-3-26 表	46年度修了生アチーブメントテスト結果	157
4-3-27 図	46年度修了生アチーブメントテストH得点分布	157
4-3-28 図	46年度修了生アチーブメントテスト領域別プロフィール	157
(4) 施設・設備		158
4-4-1 図	電気機器科実習場配置	158
4-4-2 図	電気工事実習場兼車庫	159
4-4-3 図	実習場 (a)	159
4-4-4 図	実習場 (b)	159
4-4-5 表	主な設備の基準と充足状況	160
4-4-6 表	視聴覚機器整備・利用状況	162
4-4-7 表	46年度実習費決算内訳	162

(5) 目標と使用テキスト		
4-5-1	教育・訓練の目的と方針	162
4-5-2	電気機器科目標	162
4-5-3表	1年次使用教科書	163
4-5-4表	2年次使用教科書	163
4-5-5図	45年度訓練日誌様式	164
4-5-6図	46年度訓練日誌様式	165
補足資料1.	カリキュラムに関連した指導方法	166
(1)	一般的な指導方法	166
(2)	各領域毎の特徴的な指導方法とその問題点	167
補足資料2.	指導員と訓練生の訓練観	174
(1)	電気工事士資格取得について	174
(2)	その他の資格取得について	177
(3)	実習訓練について	177
(4)	川柳に表われた訓練生の印象	179

資料1. 第1章にて分析した訓練校所在地の工業の概要

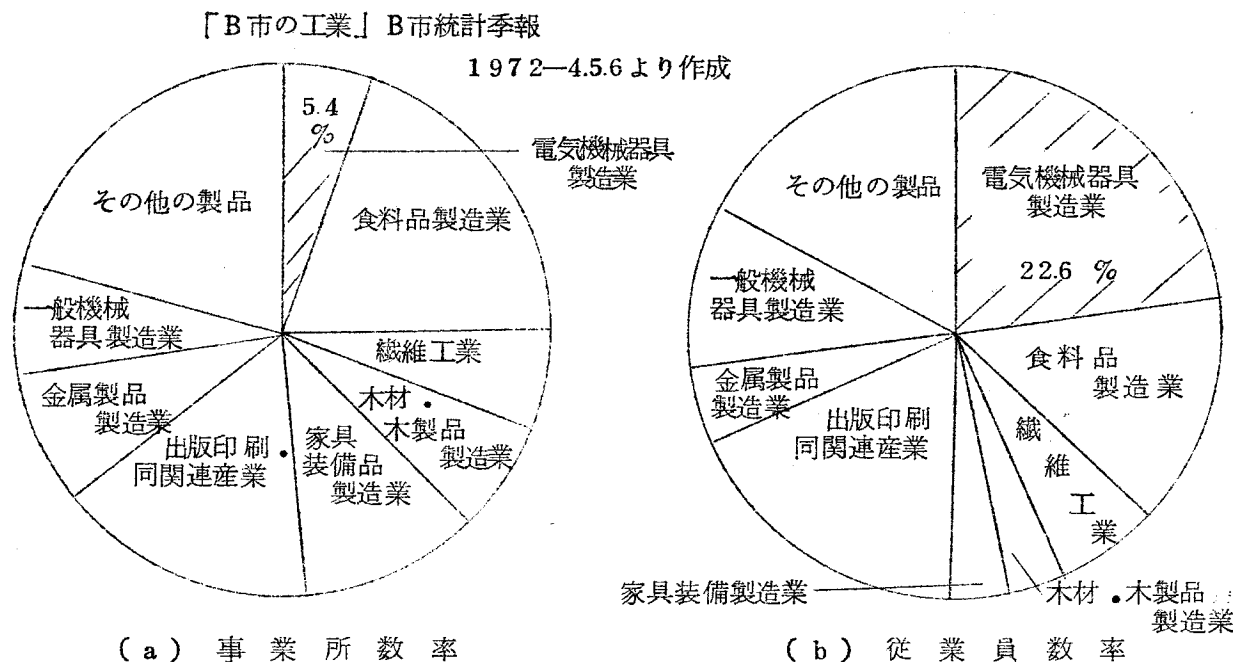
1-1図 A市工業の概要(昭和45年度)



(a) 事業所数率

(b) 従業者数率

1-2図 B市工業の概要(昭和46年度)

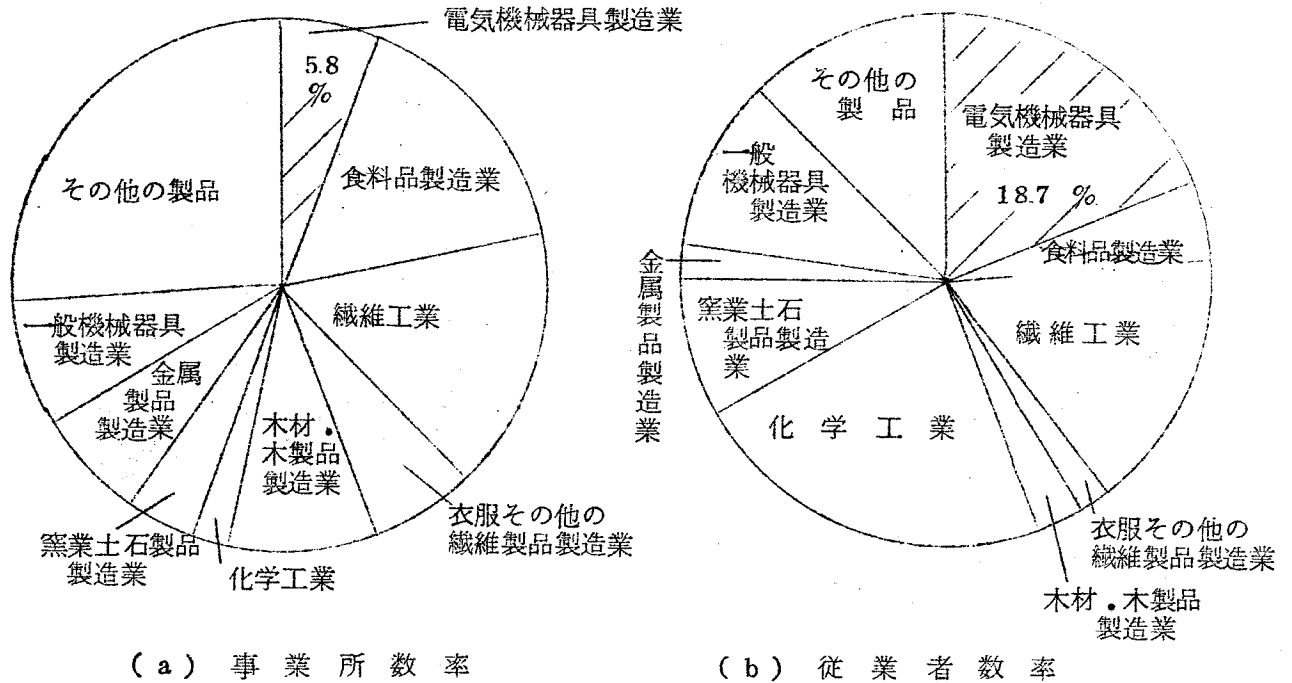


(a) 事業所数率

(b) 従業者数率

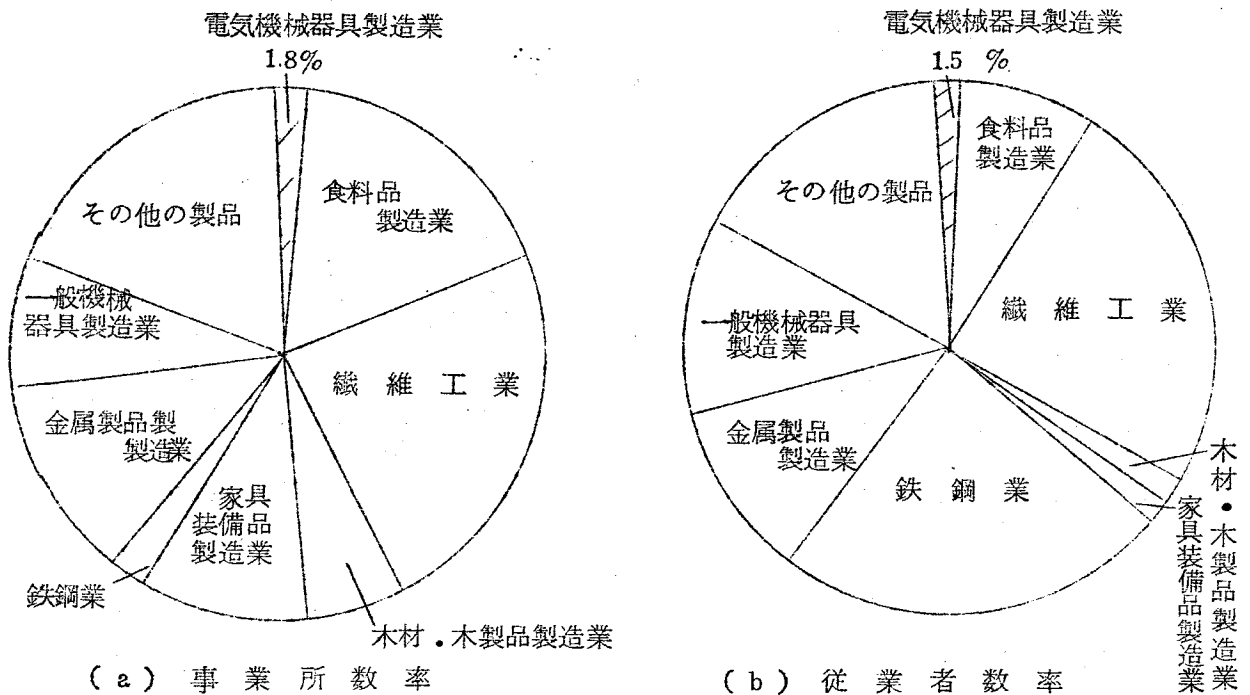
1-3図 C市工業の概要(昭和46年度)

「工業統計調査結果報告」C市
統計情報No.8より作成



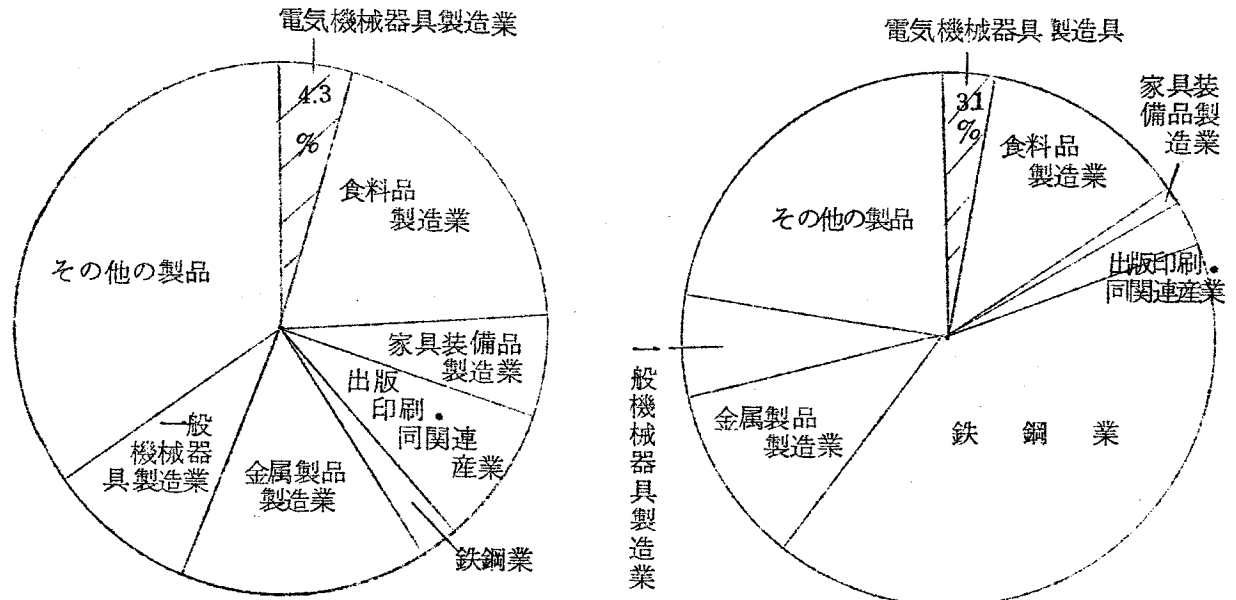
1-4図 D市工業の概要(昭和46年度)

「県工業統計調査結果報告」より作成



1-5図 E市工業の概要（昭和46年度）

「E市の統計・工業編」より作成

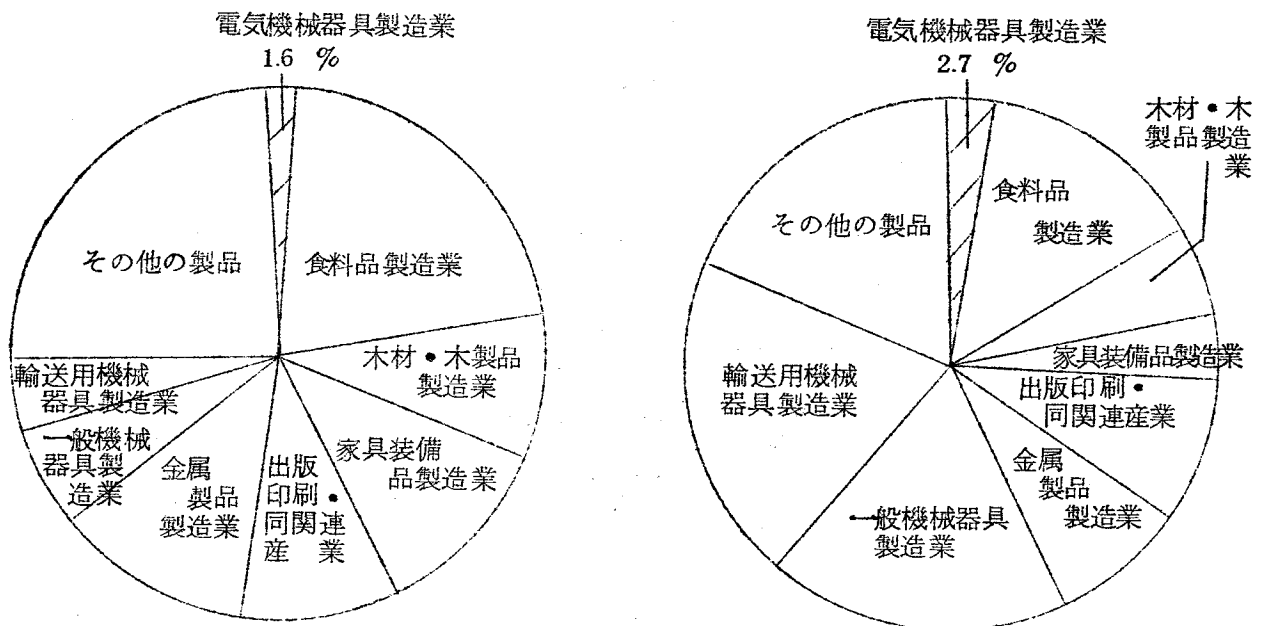


(a) 事業所数率

(b) 従業者数率

1-6図 F市工業の概要（昭和45年度）

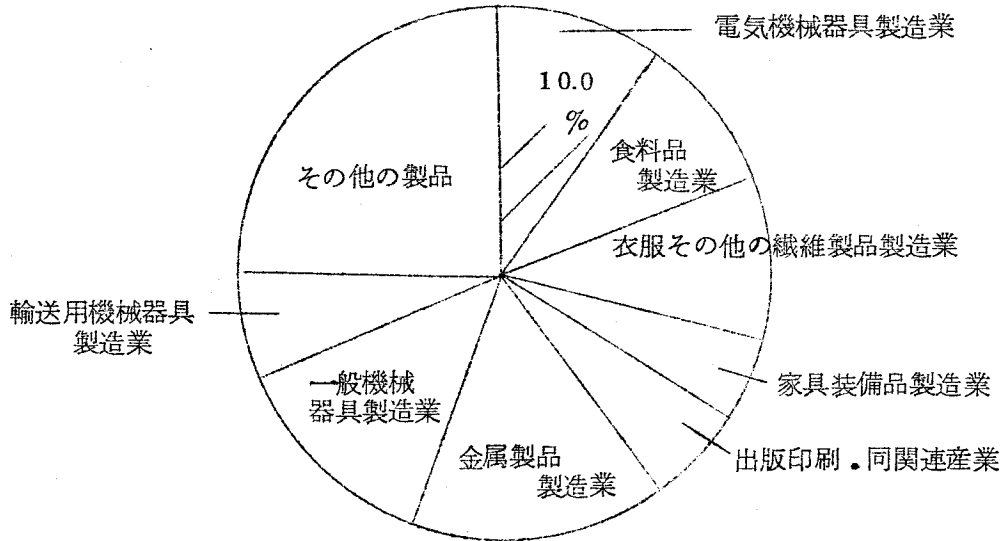
「F都市圏の理況と将来」より作成



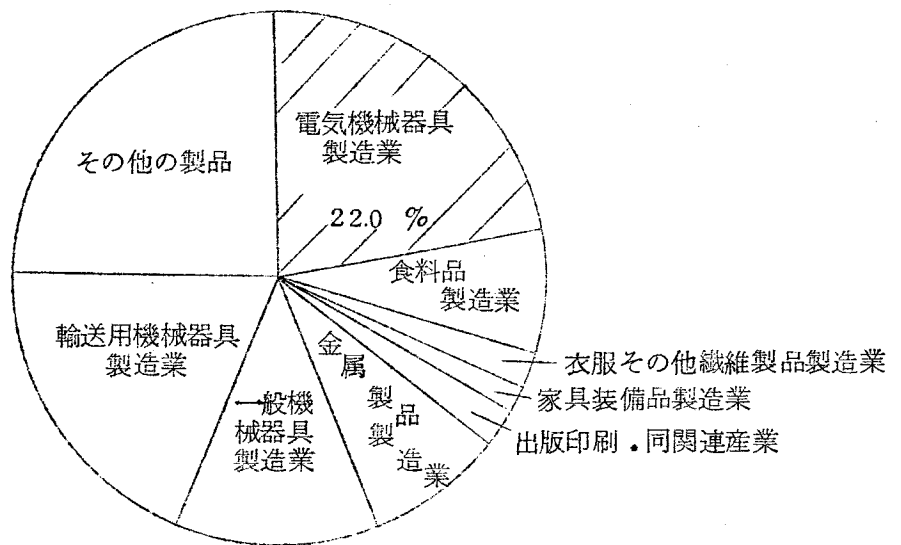
(a) 事業所数率

(b) 従業者数率

1-7 図 G市工業の概要（昭和46年度）
「G市の工業」より作成



(a) 事業所数率



(b) 従業者数率

職業訓練大学校
調査研究部

◎ このアンケートには、電気機器科の意見として、どなたかお一人がお答え下されば結構です。(回答24校)

1. 地域産業の電気関係の企業は、どのような事業をしている企業があるか。

ホ. その他 12.5%

りますか。

4. 受託実習を行う理由は主に何でしょうか。(受託実習を行っている場合)

イ. 電気機器製造 37.5%

ロ. 電気工事 100.0%

ハ. 配電盤製作 79.2%

ニ. 電子機器製造 37.5%

ホ. その他 16.7%

2. 地域産業からの生産依頼はありますか。

イ. 毎年必ずある 12.5%

ロ. 時々ある 20.8%

ハ. ほとんどない 41.6%

ニ. 全くない 25.0%

3. 受託実習の作業内容は主にどのような職種がありますか。

イ. 機器修理 50.0%

ロ. 電気工事 20.8%

ハ. 配電盤製作 25.0%

ニ. 電子機器修理 8.3%

る場合)

イ. 予算不足 8.3%

ロ. 実習教材不足 41.6%

ハ. 訓練生の意欲喚起 37.5%

ニ. 断れぬから 4.2%

ホ. その他 20.8%

5. 受託実習を年間訓練予定に組んで計画的に行なっていますか。

イ. 行なっている 0.0%

ロ. 予定は組むが受注の時期が一致しない 29.2%

ハ. 予定は組まず依頼があれば行う 62.5%

ニ. 予定も組まず行なわない 8.3%

6. 受託実習に対して訓練生はどう反応していますか。(その他の訓練に比べて)

イ. 非常に積極的 4.2%

ロ. やや積極的 33.3%

- ハ. あまり変らない 4 1.6%
 - ニ. その他の他 1 6.7%
7. 訓練目標の決定時に、特に考慮した点は次の中でどれですか。
- 1. 社会の要求 4 1.6%
 - ロ. 指導員定員 4.2%
 - ハ. 施設・設備 5 0.0%
 - ニ. 生徒の素質 5 0.0%
 - ホ. その他の他 4.2%
8. 費料の訓練目標では、強いて言えば次の中のどれにウェイトを置いていきますか。いくつか選んでください。
- 1. 基礎のため 7 9.1%
 - ロ. 出来るため 8.3%
 - ハ. 技術者の 1 6.7%
 - ニ. 卒業後企業ですぐ役立つため 1 2.5%
 - ホ. 学科 2 5.0%
 - ヘ. 実技 2 0.8%
 - ト. わかるため 2 0.8%
 - チ. 技能者の 3 3.4%
 - リ. 巾広く 6 6.6%
 - ヌ. 奥深く 0.0%
9. 訓練生は最終的に何が出来ることを目標としていきますか。
- 1. 運転保守 3 7.5%
 - ロ. 機器修理 4 5.8%
 - ハ. 電気工事 7 0.9%
- ニ. 配電盤製作 3 3.3%
 - ホ. その他の他 4.2%
10. 年間訓練計画や訓練内容の決定時の問題となるのは何でしょうかといくつか選んで下さい。
- 1. 企業の要求が不明 8.3%
 - ロ. 施設・設備不足 7 0.9%
 - ハ. 訓練時間不足 0.0%
 - ニ. 指導員定員不足 1 6.7%
 - ホ. 指導員の研修不足 2 9.1%
 - ヘ. 指導員のロード 1 6.7%
 - ト. 生徒の素質 7 9.2%
 - チ. 生徒の将来が見通せない 2 0.8%
 - リ. その他の他 4.2%
11. 法改訂に伴う基準の改訂により、費料では訓練内容や訓練時間数などを大きく変えた点がありますか。
- 1. ある 4.2%
 - ロ. 基準改訂に関係なく徐々に変わっている 9 1.6%
 - ハ. なし 4.2%
12. 電工科・電子科との関係において、費料では電気機器科独自の訓練内容を決めるのに苦労していますか。
- 1. 併設されているので苦労する 4.2%
 - ロ. 併設されているが苦労はない 2 5.0%
 - ハ. 併設されていないが苦労する 2 0.8%
 - ニ. 併設されていないので苦労はない 5 0.0%

13. 訓練内容の決定にあたって、基準の教科が制約になつていますか。
- イ. なつていない 50.0%
 - ロ. なつていない 50.0%
14. 施設・設備の不足により、やむを得ず教科時間数を多くしていますか。
- イ. 多くしている 25.0%
 - ロ. 機器は不足ではあるが多くしてない 54.2%
 - ハ. 機器は大体そろつている 20.8%
15. 電気機器科の実習については基本実技と応用実技が明確に区別しにくい点がありますが、貴科の応用実技は基本実技の内容とどう違いますか。
- イ. 収入の上のもの 16.6%
 - ロ. 基本実技を組み合せたもの 70.9%
 - ハ. ほとんど差がない 20.8%
 - ニ. その他 4.2%
16. 電気工事や保守に関して、校内で要求や事故があつた時、貴科ではどうしていますか。
- イ. そのつど指導員がやる 33.3%
 - ロ. そのつど訓練生にさせる 62.5%
 - ハ. 業者にさせる 4.2%
 - ニ. その他 29.2%
17. 貴科は電気工事士養成の認定校ですか。
- イ. はい 20.8%
 - ロ. いいえ 58.3%
- ハ. 申請中 0.0%
- ニ. 検討中 20.8%
18. 貴科では、電気工事士テストを受けさせていますか。
- イ. 1年全員に受けさせる 8.3%
 - ロ. 2年全員に受けさせる 50.0%
 - ハ. 希望者のみ受けさせる 33.3%
 - ニ. 受けさせてない 8.3%
19. 計画に組んでいる学科内容を消化できない場合、実習時間に喰い込んで消化するようにしていますか。
- イ. している 41.6%
 - ロ. 計画どおりに終えるのではない 54.4%
20. 教室で簡単な実験など行なつていますか。
- イ. している 37.5%
 - ロ. していない 62.5%
21. 実習において、同じ機材が全員に与えられぬ時はどうしていますか。
- イ. 機材の数だけ班をつくつて訓練する 54.1%
 - ロ. 同じ領域の他の機材を使う実習を行う 24.2%
 - ハ. 全く別の領域の実習をする 37.5%
 - ニ. その他 4.2%

22. 貴科訓練生の状況をお教え下さい。

年度	定員	応募者数	入校者数	高校入校者数
45		760	394	18
		86	25	
46		704	406	14
		76	28	
47	430	672	368	21
	25	120	26	

(注1) 能開・2類を除く20校の計

(注2) 各欄上段はその中の19校の計、下段は残りの1校の計

(注3) 定員は昭和47年度「職業訓練行政組織及び施設一覧」の計

23. 貴科における視聴覚機器の利用状況をお教え下さい。

機材名	設備校	使用教科目	教科の内容	枚数
スライド映写機	1台 22校	工 作 法	安全衛生作業	6
			ノギス・マイクロ使用法	3
	2台 2校	電 気 工 事	材料・工具	3
		電 気 機 器	モーター構造	1
		測 定 法	計器取り扱い法	1
		電 気 理 論	電気の基礎	1
8 mm 映 写 機	1台 6校	社 会	一般教養	1
	2台 1校	電 気 機 器	交流電動機の原理	3
16 mm 映 写 機	1台 22校	工 作 法	穴あけ・ネジ立て	3
			ノギス・マイクロ使用法	2
		電 気 機 器	交流電動機の原理	13
		製 図	製図の基礎	2
O・H・P	1台 21校	電 気 理 論	交流理論	1
		製 図	配線図の書き方	1
	2台 1校	電 気 工 事	工事方法の説明等	3
		各教科に全般的に使用		2
		各教科に全般的にスライドと併用		1
テープコーダー	1台 14校	英 語	発音・イントネーション	1
	2台 4校			
	3台 2校			
テ レ ビ	1台 8校	測 定 法	ブラウン管の使用法	1
ラ ジ オ	1台 4校			
	2台 1校			
	3台 1校			
	10台 1校			
掛 図		電 気 工 事	配 線 図	1

職業訓練大学校
調査研究部

◎ このアンケートには、電気機器科の先生方全員がお答え下さい。(回答79名)

1. 電気機器科では訓練内容の時間配分が大きく異なっています。これについてどう思われますか。
- ロ. 事業団本部 17.7%
ハ. その他 19.0%
1. 訓練校により条件が様々に異なるのだから当然だ 43.1%
ロ. ある程度は統一すべきだと思ふ 46.8%
ハ. 全く同じように統一すべきだ 7.6%
2. 貴方御自身が受け持っている科目の訓練内容を決定することについて、どう思っておられますか。
- イ. 自信を持って決めている 36.7%
ロ. 大変不安である 11.4%
ハ. 少し不安である 55.7%
3. 2で「大変不安である」、「少し不安である」と答えられた方は、どういふ点で不安ですか。
- イ. 社会の要求に合っているかが不安 17.0%
ロ. 生徒の能力を伸ばしているかが不安 58.5%
ハ. 生徒の将来にわたって役立つかが不安 22.6%
ニ. その他(お考えをお聞かせ下さい) 17.0%
4. 年間訓練予定表を具体化する程度の訓練目標の決定は、どこでやるべきだと思えますか。(自由記述)
- イ. 各訓練校 39.2%
ロ. 事業団本部 17.7%
ハ. その他 19.0%
ニ. 訓練期間の後半における応用実技の訓練の場合は、実技だけを訓練し、学科は訓練せぬ方が、訓練効果は上がると思いませんか。 1.3%
イ. 思う 67.1%
ロ. 思わない 29.1%
ハ. どちらともいえない
6. 訓練目標・内容について、指導員が集まって検討することはよい事だと思えますか。どういふ方法がよいと思われますか。(自由記述)
- イ. プロツク毎に 7.6%
ロ. プロツクでやり全国に広げる 5.1%
ハ. 全国的に 5.1%
ニ. 科内で定期的な 11.4%
ホ. その他 24.2%
ヘ. 学科と実技の関連について 11.4%
7. 中卒訓練生の潜在能力を伸ばすには、学科より実技の方が効果があると思えますか。
- イ. はい 38.1%
ロ. いいえ 8.9%
ハ. どちらともいえぬ 51.9%

8. 総高訓の特色を生かすには実技を重視するのは良いことだと思いますか。

- イ. はい 53.2%
- ロ. いいえ 13.9%
- ハ. どちらともいえぬ 32.9%

9. 総高訓は工業高校と比べどのような所が良いと思いますか。(自由記述)

- イ. 実技が多い、技能、実技に役立つ等 54.4%
- ロ. 実技と学科を関連づけて理解できる等 7.6%
- ハ. その他 16.4%

10. 中率者を対象とした場合、学科と実習の割合はどれぐらいが適当だと思いますか。(自由記述)

- 学科時間数：実習時間数＝
- 8：2 1.3%
 - 7：3 5.6%
 - 6：4 11.4%
 - 5：5 34.2%
 - 4：6 24.2%
 - 3：7 13.9%

11. 電気機器科訓練生の「技能」とはどういうものとお考えですか。

- イ. 電気取り扱い一般 70.9%
- ロ. 機器修理 16.5%
- ハ. 運転保守 22.8%
- ニ. その他 17.7%

12. 電気機器科修了生の資格として、「技能士補」の他に更に電気工事士等を取得させることはよいことと思いませんか。

- イ. はい 96.2%
- ロ. いいえ 2.5%
- ハ. どちらともいえぬ 1.3%

13. 訓練目標としては次の中のどれにウエイトを置くべきと思われるますか。いくつか選んで下さい。

- イ. 基礎的なもの 83.5%
- ロ. 技術者のなもの 16.5%
- ハ. 技能者のなもの 49.4%

ニ. 出来るために 12.7%

ホ. 卒業後すぐ役立つため 15.2%

ヘ. わかるため 15.2%

ト. 学科 26.6%

チ. 実技 25.3%

リ. 巾広く 44.3%

ヌ. 奥深く 6.3%

14. 技術の進歩によっても、電気機器科修了生として習得しておくべき「変らぬ基本」とは何だと思われませんか。(自由記述)

- イ. 電気理論等 27.9%
- ロ. 測定実験等 19.0%
- ハ. 電気に関する基礎的知識等 30.4%
- ニ. 基本実技等 11.4%
- ホ. 機器の原理・取扱い等 11.4%
- ヘ. その他 17.7%

15. 電気実験は厳しくやる必要があると思われませんか。
- イ. 思う 5 3.2 %
 - ロ. 生徒の能力以上に必要ない 4 3.1 %
 - ハ. 工高と異なるので必要ない 0 0.0 %
 - ニ. 生徒は嫌うので不必要 1 1.3 %
16. 訓練生が嫌う実習内容は何でしょうか。
- イ. 理論 域 8 2.3 %
 - ロ. 機器 域 2 1.5 %
 - ハ. 工 事 域 2 2.5 %
 - ニ. 制 御 域 1 1.3 %
 - ホ. 電 子 域 5 5.6 %
17. 簡単な実験など教室でやった方がよいと思いませんか。
- イ. 思う 7 4.7 %
 - ロ. 思わない 1 1.4 %
 - ハ. どちらともいえない 1 1.3 %
18. 機器に関する訓練の程度については、訓練生は
- イ. 原理と構造について理解していればよい 1 1.4 %
 - ロ. 更に運転保守が出来ればよい 4 1.8 %
 - ハ. 更にコイルの結線が出来ればよい 6 6.3 %
 - ニ. 更に巻線、絶縁作業が出来ればよい 3 3.7 %
19. 今後、電気機器科修了生として、制御域の知識・技能を習得して
おく必要があると思われませんか。
- イ. 思う 9 6.2 %
 - ロ. 思わない 2 2.5 %
20. 今後、電気機器科修了生として、電子域の知識・技能を習得して
おく必要があると思われませんか。
- イ. 思う 9 6.2 %
 - ロ. 思わない 2 2.5 %
21. 電気機器科の訓練内容には何領域を中核にすべきだと思われま
すか。
- イ. 理 論 域 5 5.1 %
 - ロ. 機 器 域 1 1.7.7 %
 - ハ. 工 事 域 1 1.3 %
 - ニ. 制 御 域 1 1.4 %
 - ホ. それぞれの領域を大体的平均的に 7 7.0.9 %
22. 受託実習を行うことについて、どうお考えですか。
- イ. 無条件でよい 0 0.0 %
 - ロ. 条件によつてはよい 8 8.5 %
 - ハ. よくないことだ 1 1.5 %
23. 2 2.で「条件によつてはよい」と答えられた方は、どのような場
合でしょうか。
- イ. 実習収入がかなり上がるもの 5 5.7 %
 - ロ. 生徒が意欲をもつもの 2 2.7.1 %
 - ハ. 年間訓練計画の内容と時期が一致するもの 7 7.1 %
 - ニ. 生徒が意欲を持ち、年間訓練計画の内容と
時期が一致するもの 6 6.5.8 %
24. 受託実習は訓練生の能力を高めると思われますか。
- イ. そう思う 1 1.2.7 %

- ロ. 内容と時期による 7 7.2 %
- ハ. 思えない 1 0.1 %
25. 訓練生が高卒化するということは、どういうことになると思われ
ますか。
- イ. 理解力があり指導しやすくなる 4 4.8 %
- ロ. 生活指導に力がかかなくなる。 3 3.8 %
- ハ. 学歴があり指導しにくくなる 3 3.8 %
- ニ. 目的意識が明確なので指導しやすくなる 1 2.7 %
- ホ. 目標・内容の決定が困難になる 3 3.0 %
- ヘ. その他 1 1.5 2 %
26. 年間訓練予定表はどの程度の正確さが必要と思われ
ますか。
- イ. 従来通り 2 2.0 1 %
- ロ. 月単位ぐらい 4 4.0 3 %
- ハ. この時期には何をやるかということが 4 4.0 3 %
わかる程度
27. 同領域の内容なら、実技より学科を早く訓練した方が、生徒に興
味を持たせるには良いと思いませんか。
- イ. 思 う 3 3.2 9 %
- ロ. 思わない 1 1.9 0 %
- ハ. どちらともいえない 4 4.6 8 %
28. 同領域の内容なら、実技より学科を早く訓練した方が、生徒の実
技能力を高めるのに良いと思いませんか。
- イ. 思 う 4 4.9 4 %
- ロ. 思わない 1 1.2 7 %
- ハ. どちらともいえない 3 3.6 7 %
29. 同領域の内容なら、実技より学科を早く訓練した方が、生徒は訓
練を受けやすいと思いませんか。
- イ. 思 う 4 4.5 6 %
- ロ. 思わない 1 1.5 2 %
- ハ. どちらともいえない 3 3.8 0 %
30. 同領域の内容なら、実技より学科を早く訓練した方が、生徒が問
題に直面した時の問題解決力が優ると思いませんか。
- イ. 思 う 5 5.8 3 %
- ロ. 思わない 1 1.1 4 %
- ハ. どちらともいえない 2 2.9 1 %
31. 同領域の内容なら、実技より学科を早く訓練した方が、訓練効果
が上ると思いませんか。
- イ. 思 う 4 4.8 1 %
- ロ. 思わない 1 1.2 7 %
- ハ. どちらともいえない 3 3.8 0 %
- 次のような意見があります。先生のご経験からどう思いませんか。
32. 入校時に知能が高くとも学力が低い生徒ほど他の生徒に比べよく
伸びている。
- イ. その通りだ 2 2.5 %
- ロ. そんなことはまずない 2 2.4 0 %
- ハ. どちらとも言えぬ 5 5.9 5 %
- ニ. その他 2 2.5 %

36. 今後、研修を受けるとしたら、どういう部門について受講された

- いと思われませんか。 7 4.8 %
1. 技 術
- a. 新 技 術 3 3.9 %
- b. 機 器 域 3.4 %
- c. 工 事 域 1.7 %
- d. 制 御 域 3 3.9 %
- e. 電 子 域 2 5.4 %
- ロ. 指 導 法 1 0.1 %
- ハ. 生徒理解 2 1.5 %
- ニ. そ の 他 5.6 %

33. 入校時に学力の低い生徒ほど他の生徒に比べ伸びている。

1. その通りだ 0.0 %
- ロ. そんなことはまずない 3 6.7 %
- ハ. どちらとも言えぬ 4 9.4 %
- ニ. そ の 他 2.5 %

34. 入校時に知能の低い生徒ほど他の生徒に比べ伸びている。

1. その通りだ 1.3 %
- ロ. そんなことはまずない 4 0.5 %
- ハ. どちらとも言えぬ 4 4.3 %
- ニ. そ の 他 1.3 %

35. 指導員に対する反抗的な傾向の少ない生徒ほど他の生徒に比べ伸び

- ている。
1. その通りだ 2 5.3 %
- ロ. そんなことはまずない 1 3.9 %
- ハ. どちらとも言えぬ 5 0.6 %
- ニ. そ の 他 1.3 %

3-1 図 内容の統一性と目標決定の関連

訓練目標の決定は	へ、その他、本部、イ、各訓練校	無		答	
		ハ		ハ	
		ロ		ロ	
		イ		イ	
Q4		当然	ある程度統一すべき	統一すべき	
	Q1	訓練内容の相違は			

3-2 図 内容選定と目標決定の関連

訓練目標の決定は	へ、その他、本部、イ、各訓練校	無		答	
		ハ		ハ	
		ロ		ロ	
		イ		イ	
Q4		ある	不安だ		
	Q2	内容決定の自信は			

3-3図 実習の位置づけ (1)

実習による能力伸長は	ハ ?	ハ	ハ	ハ	ハ
	ロ ない		ロ		
	ハ ある	イ	イ	イ	イ
Q7		実技・技能・役立つ	関連	他	無答
Q9	工高と比べ訓練校の長所は				

3-4図 実習の位置づけ (2)

実習は訓練校の特色に	ハ ?	ハ	ハ	ハ	ハ
	ロ ならぬ		ロ		
	ハ なる	イ	イ	イ	イ
Q8		実技・技能・役立つ	関連	他	無答
Q9	工高と比べ訓練校の長所は				

資料 4. 長崎総高訓電気機器科をとりまく情況

4-1-1表

県内主要経済指標

基準・単位	人口 (年は10月1日 月は1日現在)	定期給与 賃金指数	雇用指数	鉱工業 生産指数	魚市場水揚量 (長崎・佐世保)	百貨店 売上高	消費者 物価指数
	人	45年=100	45年=100	45年=100	トン	百万円	45年=100
42年平均	1 632 039	69.1	99.8	79.0	267 786	7 447	83.5
43	1 616 351	77.2	100.2	82.1	269 990	8 515	88.4
44	1 601 266	87.3	99.9	86.9	271 552	10 678	92.9
45	1 570 245	100.0	100.0	100.0	261 902	12 853	100.0
46	1 559 178	114.8	101.8	102.7	259 655	14 765	105.5
46年8月	1 556 009	117.0	101.4	95.3	15 774	1 284	107.0
9月	1 557 474	118.9	101.6	112.1	22 758	967	107.9
47年8月	1 550 986	131.7	97.8	110.8	14 045	1 457	112.6
9月	1 552 472	134.8	97.7	100.0	23 426	1 126	112.3
前月比	100.1	102.4	99.9	90.3	166.8	77.3	99.6
前年同月比	99.7	113.4	96.2	89.2	102.9	116.4	104.1

長崎県企画部統計課「長崎の統計」11 16169 '72より

4-1-2表

産業別統計の前年対比

(全事業所)

産業中分類	事業所数				従業者数			
	45年	46年			45年	46年		
		実数	実数	構成比		前年対比	実数	実数
総数	5 601	5 378	100.0	97.8	84 496	88 213	100.0	104.4
食料品製造業	2 749	2 610	48.5	94.9	18 004	17 066	19.3	94.8
繊維工業	60	75	1.4	125.0	2 922	5 702	6.5	195.1
服・その他の織物製造業	88	93	1.7	105.7	3 185	3 273	3.7	102.8
木材・木製品製造業	337	315	5.9	93.5	3 046	2 984	3.4	98.0
家具・装飾品製造業	236	232	4.3	98.3	1 828	1 692	1.9	92.6
パルプ・紙・紙加工品製造業	70	69	1.3	98.6	558	530	0.6	95.0
出版・印刷・同関連産業	220	211	3.9	95.9	2 852	2 740	3.1	95.7
化学工業	28	27	0.5	96.4	400	424	0.5	106.0
石油製品・石炭製品製造業	7	6	0.1	85.7	97	83	0.1	85.6
ゴム製品製造業	6	6	0.1	100.0	45	47	0.1	104.4
なめしかわ・同製品・毛皮製造業	6	6	0.1	100.0	20	17	0.0	85.0
窯業・土石製品製造業	580	595	11.1	102.6	7 943	7 929	9.0	99.9
鉄鋼製品製造業	29	27	0.5	93.1	3 313	2 601	2.9	78.5
非金属製品製造業	7	8	0.2	114.3	72	127	0.1	175.4
一般機械器具製造業	282	275	5.1	97.5	5 200	5 119	5.8	98.4
電気機械器具製造業	103	114	2.1	110.7	4 954	5 979	6.8	120.7
輸送用機械器具製造業	25	22	0.4	88.0	4 041	4 082	4.6	101.0
精密機械器具製造業	371	366	6.8	98.7	23 686	25 169	28.6	106.3
武器製造業	13	13	0.3	100.0	378	483	0.5	127.8
その他製造業	1	1	0.0	100.0	x	x	x	x
	283	307	5.7	108.5	(1 952)	(2 166)	(2.5)	(111.5)

長崎県企画部統計課「長崎の統計」10 16168 '72より

4-1-3表

長崎県工業生産指数

(昭和45年=100)

年月	製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	機械工業	一般機械工業	電気機械工業	輸送機械工業
ウエイト	9,383	676	103	235	6,821	2,543	807	3,471
昭和40年	52.5	52.9	82.1	60.5	45.4	47.4	33.4	46.8
41	61.9	60.3	69.4	143.9	54.5	53.4	34.2	60.0
42	75.6	100.2	91.3	136.2	66.8	53.1	47.6	81.4
43	79.2	85.3	87.5	56.1	74.6	65.2	62.8	84.3
44	84.7	91.0	81.9	74.7	82.1	75.1	73.6	89.3
45	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
46	103.4	63.9	101.3	91.2	107.9	111.8	101.2	106.6

長崎県企画部統計課「長崎の統計」10 頁168より

4-1-4表 諫早市工業の推移

(年次比 昭和34年=100)

年次	区分		事業所数		従業者数	
	実数	年次比	実数	年次比	実数	年次比
昭和34年	126	100.0	1,127	100.0		
35	148	117.5	1,333	118.3		
37	145	115.1	1,559	138.3		
39	164	130.2	2,658	235.8		
41	208	165.1	3,169	292.5		
43	207	164.3	3,388	300.6		
45	211	167.5	3,516	312.0		
46	212	168.3	3,698	328.1		

諫早市商工会議所「諫早市商工業の概要」
昭和46年6月より

4-1-5表 諫早市工業の業種別事業所・従業者数 (昭和45年度)

業種	区分	工場数	従業者数 総数
総額		211	3,516
食料品		91	882
繊維工業		3	54
衣服その他の繊維製品		3	57
木材・木製品		8	44
家具・装備品		15	74
パルプ・紙加工品		4	30
出版・印刷同関連産業		12	214
化学工業		3	117
なめし皮・同製品毛皮製品業		1	2
窯業・土石製品		9	163
鉄工業		1	83
金属製品		17	628
一般機械器具		11	626
電気機械器具		1	21
輸送用機械器具		9	300
精密機械器具		1	18
その他の製造業		22	203

諫早市商工会議所「諫早市商工業の概要」
昭和46年6月より

4-1-6表 過去10年間の中学校卒業生

年度別	総数		男		女	
	実数	指数	実数	指数	実数	指数
昭和38年度	47,787人	100.0%	24,404人	100.0%	23,383人	100.0%
39	49,141	102.8	25,009	102.5	24,132	103.2
40	49,087	102.7	25,144	103.0	23,943	102.4
41	44,977	94.1	23,040	94.4	21,937	93.8
42	43,230	90.5	22,327	91.5	20,903	89.4
43	41,185	86.2	20,979	86.0	20,206	86.4
44	39,388	82.4	20,054	82.2	19,334	82.7
45	36,692	76.8	18,689	76.6	18,003	77.0
46	35,034	73.3	17,958	73.6	17,076	73.0
47	32,568	68.2	16,557	67.8	16,011	68.5

長崎県企画部統計課「長崎の統計」9 頁167 '72より

4-1-7表 中学校卒業生の年次別進路動向

年度別	区分	卒業生	進学者	就職者	就職進学者	無業者	その他
昭和39年度	実数	49,141	25,602	17,357	1,688	4,248	246
	構成比	100.0	52.1	35.3	3.4	8.7	0.5
40	実数	49,087	27,139	15,444	1,900	4,385	219
	構成比	100.0	55.3	31.5	3.9	8.9	0.4
41	実数	44,977	26,018	13,372	1,591	3,830	166
	構成比	100.0	57.9	29.7	3.5	8.5	0.4
42	実数	43,230	25,405	12,220	1,765	3,719	121
	構成比	100.0	58.8	28.3	4.0	8.6	0.3
43	実数	41,185	24,649	10,872	2,182	3,400	82
	構成比	100.0	59.8	26.4	5.3	8.3	0.2
44	実数	39,388	24,318	9,704	2,330	2,924	112
	構成比	100.0	61.7	24.6	5.9	7.5	0.3
45	実数	36,692	23,609	7,936	2,479	2,604	64
	構成比	100.0	64.4	21.6	6.8	7.1	0.1
46	実数	35,034	23,421	6,782	2,652	2,136	43
	構成比	100.0	66.8	19.4	7.6	6.1	0.1
47	実数	32,568	22,931	5,264	2,463	1,870	40
	構成比	100.0	70.4	16.2	7.6	5.7	0.1
前年度との比較	実数対前年度増減率(△)	△2,466	△490	△1,518	△189	△266	△3
		△7.0	△2.1	△22.4	△7.1	△12.5	△7.0

長崎県企画部統計課「長崎の統計」9 頁167 '72より

4-1-8表

中学校生徒数の推移(公立)

市 郡 別	39年度		41年度		43年度		45年度		47年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
県 計	70,690	65,405	63,228	59,694	56,819	54,129	50,499	48,155	47,600	45,381
市 計	37,225	33,324	32,796	30,278	29,184	27,370	25,626	24,193	24,995	23,376
郡 計	33,465	32,081	30,432	29,416	27,635	26,759	24,873	23,962	22,605	22,005
長 崎 市	15,068	12,546	13,170	11,793	11,435	10,645	10,322	9,720	10,506	9,796
佐 世 保 市	10,278	9,331	8,822	8,206	7,721	7,434	6,702	6,400	6,227	5,843
島 原 市	1,831	1,780	1,660	1,559	1,565	1,478	1,431	1,324	1,368	1,334
諫 早 市	2,568	2,450	2,451	2,271	2,169	1,993	1,894	1,773	1,882	1,730
大 村 市	2,159	2,119	1,999	1,926	1,899	1,692	1,672	1,529	1,593	1,409
江 戸 市	1,743	1,676	1,602	1,572	1,498	1,413	1,334	1,249	1,281	1,189
平 戸 市	1,717	1,658	1,591	1,495	1,523	1,395	1,252	1,241	1,232	1,170
松 浦 市	1,861	1,764	1,501	1,456	1,324	1,320	1,019	957	906	905
西 彼 杵 郡	8,323	7,580	7,210	6,892	6,364	6,208	5,694	5,397	5,138	4,920
東 彼 杵 郡	1,793	1,776	1,639	1,579	1,454	1,386	1,335	1,229	1,225	1,110
北 高 来 郡	1,574	1,512	1,496	1,449	1,422	1,384	1,283	1,290	1,175	1,219
南 高 来 市	6,716	6,586	6,353	5,994	5,916	5,576	5,459	5,233	5,024	4,892
北 松 浦 郡	5,912	5,691	5,118	4,928	4,312	4,134	3,587	3,504	3,174	3,069
南 松 浦 郡	4,493	4,462	4,322	4,264	3,912	3,972	3,577	3,398	3,287	3,295
宍 岐 郡	1,866	1,818	1,671	1,702	1,645	1,675	1,572	1,551	1,485	1,419
対 馬 郡	2,788	2,656	2,623	2,608	2,610	2,604	2,366	2,360	2,097	2,181

4-1-9表

中学校卒業者の高校進学率の推移

(単位 %)

区 分	進 学 率			区 分	進 学 率		
	昭和40年度	昭和46年度	昭和47年度		昭和40年度	昭和46年度	昭和47年度
全国平均	70.7	85.0	—	平戸市	44.1	64.4	66.6
県平均	59.2	74.4	78.0	松浦市	45.3	70.4	73.1
市 部	68.5	82.6	85.2	西彼杵郡	53.6	75.8	77.1
郡 部	47.9	65.6	70.2	東彼杵郡	55.0	73.0	75.7
長崎市	76.1	87.7	90.0	北高来郡	46.9	62.7	77.8
佐世保市	70.2	85.4	87.0	南高来郡	46.2	60.5	67.4
島原市	63.3	71.9	75.1	北松浦郡	46.2	64.0	69.0
諫早市	63.6	81.8	86.4	南松浦郡	41.1	61.1	64.3
大村市	67.6	82.1	83.8	壱岐郡	44.4	60.2	64.9
福江市	47.3	67.1	73.0	対馬郡	46.7	64.3	67.5

注 就職進学者を含む 長崎県企画部統計課「長崎の統計」9 頁167 '72より

4-1-10表

高等学校の年次別卒業者

年度別	総 数		男		女		
	実 数	指 数	実 数	指 数	実 数	指 数	構 成 比
昭和40年度	17,078人	100.0%	8,830人	100.0%	8,248人	100.0%	48.3%
41	22,128	129.6	11,580	131.1	10,548	127.9	47.7
42	25,162	147.3	13,181	149.3	11,981	145.3	47.6
43	26,455	154.9	13,765	155.9	12,690	153.9	48.0
44	25,375	148.6	13,206	149.6	12,169	147.5	47.9
45	24,625	144.2	12,770	144.6	11,855	143.7	48.1
46	24,112	141.2	12,244	138.7	11,868	143.9	49.2
47	23,436	137.2	11,640	131.8	11,796	143.0	50.3

長崎県企画部統計課「長崎の統計」9 頁167 '72より

4-1-11 表 高等学校卒業生の年次別進路別動向 (単位 人、%)

年度別	区分	卒業者	進学者	就職者	就職進学者	無業者	その他
昭和40年度	実数	17,078	3,693	10,775	165	2,099	346
	構成比	100.0	21.6	63.1	1.0	12.3	2.0
41	実数	22,128	4,723	13,356	190	3,396	463
	構成比	100.0	21.3	60.4	0.9	15.3	2.1
42	実数	25,162	5,134	15,289	187	4,203	349
	構成比	100.0	20.4	60.8	0.7	16.7	1.4
43	実数	26,455	5,227	16,451	329	4,157	291
	構成比	100.0	19.8	62.2	1.2	15.7	1.1
44	実数	25,375	4,694	15,956	317	4,090	318
	構成比	100.0	18.5	62.9	1.2	16.1	1.3
45	実数	24,625	4,811	15,472	393	3,568	381
	構成比	100.0	19.5	62.8	1.6	14.5	1.6
46	実数	24,112	4,993	14,853	346	3,609	311
	構成比	100.0	20.7	61.6	1.4	15.0	1.3
47	実数	23,436	5,405	14,134	442	3,174	281
	構成比	100.0	23.1	60.3	1.9	13.5	1.2
前年度との 比較	実数 対前年度増 減	△676	412	△719	96	△435	△30
	率	△2.8	8.3	△4.8	27.7	△12.1	△9.7

長崎県企画部統計課「長崎の統計」9 頁167、72より

4-1-12

47 外文第522号

47 職訓第236号

47 教学第404号

昭和47年11月13日

各市町村教育長

各私立中学校長

各教育事務所長

各高等学校長

殿

長崎県総務部長

長崎県経済労働部長

長崎県教育長

高等学校進学率向上のための措置について

(通知)

中学校卒業生の進路指導については、かねてより種々ご配慮をいただきあ

りがとうございます。

さて、ご承知のとおり、県では地域社会の要請にもとづき、中学校卒業生の高等学校への進学をさらに促進することを当面の重点施策としてとりあげております。

については、本施策を円滑にすすめるため、当面の具体的施策として、下記のとおり実施する予定となりました。本施策の趣旨を十分ご理解のうえ、なお一層適正な進路指導を推進されるようお願いいたします。

なお、これの具体的実施方法については検討中であります。

記

1. 下記の県立高等学校全日制課程に各1学級の増設

長崎西高等学校琴海分校、五島高等学校、松浦高等学校、大崎高等学校、国見高等学校、島原南高等学校有馬分校、上五島高等学校、壱岐商業高等学校

2. 県奨学金制度の新設（中学校在学中に採用を予約する）

(1) 公立高等学校の第1学年入学生の3パーセントを対象人員とし、月額2,000円を貸与する。

3. 通学費の補助

通学距離および交通費を考慮し、高額の通学費を要するものに対し、一定額の基礎控除を設け、これを超える金額についてその一部を補助する。

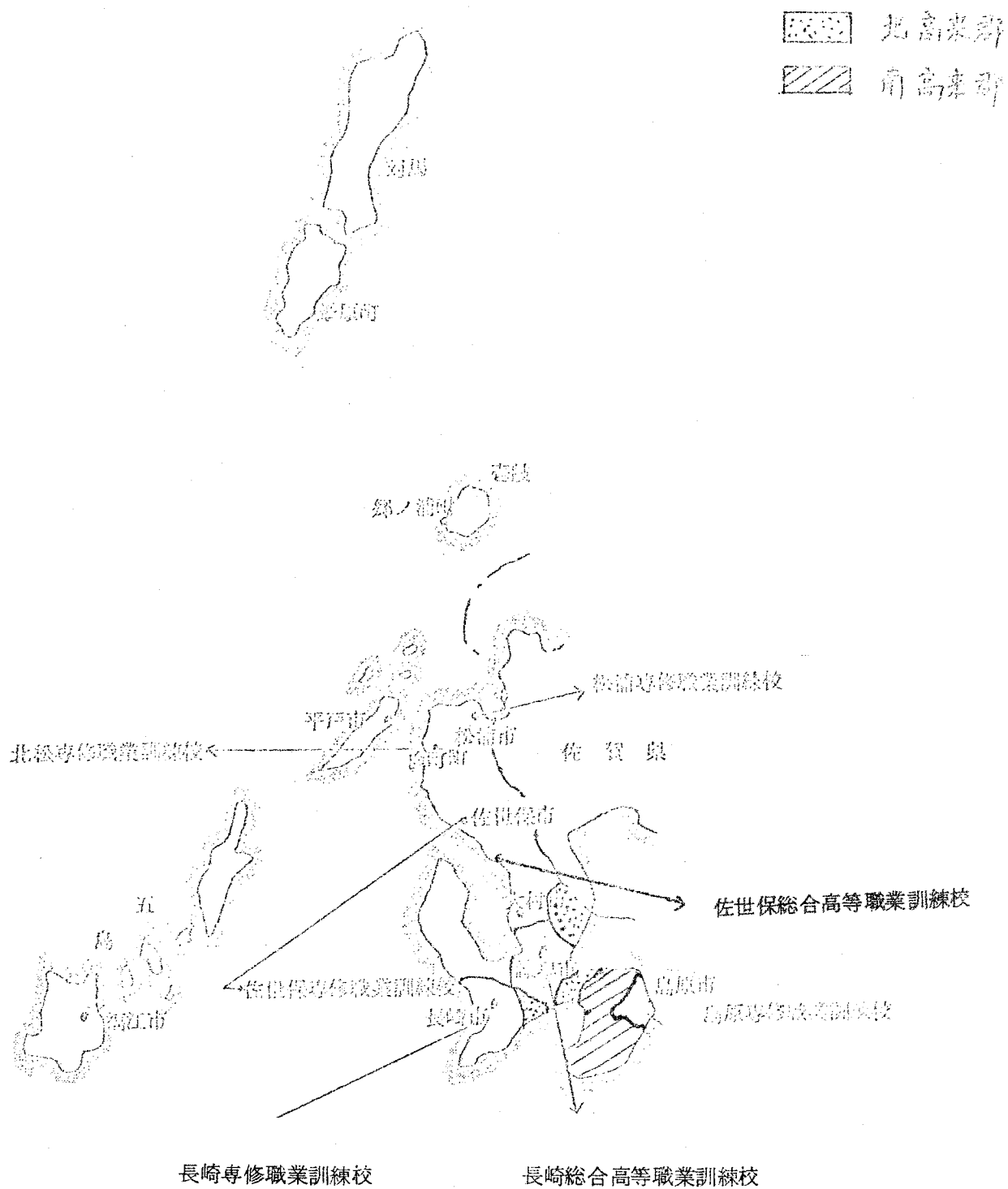
4. 高等学校定時制課程進学者に対する教科書の無償配布

昭和48年度高等学校定時制課程第1学年入学生から学年進行によって教科書を無償配布する。

5. 県立専修職業訓練校訓練生の高等学校定時制課程入学生への扶助

県立専修職業訓練校在校生が高等学校定時制課程へ入学する場合は、希望者全員に対し、月額2,000円を貸与する。

4-1-13 長崎県公共職業訓練施設配置図



4-2-1 沿革

(1) 名称 雇用促進事業団 長崎総合高等職業訓練校

(2) 所在地 長崎県諫早市小船越町1113

(3) 沿革

昭和35年 3月 労働福祉事業団長崎総合職業訓練所の設置認可

昭和36年 4月 労働福祉事業団長崎総合職業訓練所開所。

昭和36年 5月 自動車整備科、機械科、配管科、板金科、電気機器修理科の5種目訓練開始。

昭和36年 7月 雇用促進事業団の発足とともに、同団所属となり、雇用促進事業団長崎総合職業訓練所と改称。

昭和37年 4月 溶接科増設。一般転職者訓練開始。

昭和38年 4月 炭鉱離職者転職訓練開始。

昭和39年 4月 機械科、電気機器修理科の専門訓練開始。機械科、電気機器修理科、配管科、溶接科の基礎訓練廃止。中高年令者転職訓練開始。

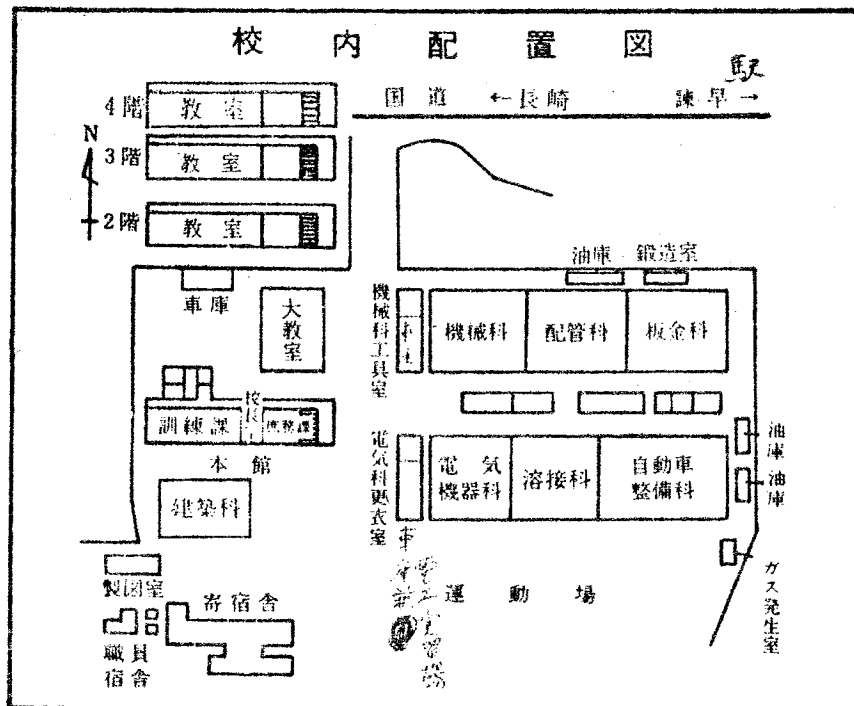
昭和40年 4月 板金科、自動車整備科の基礎訓練廃止。板金科の専門訓練開始。

昭和41年 4月 炭鉱離職者訓練を一般転職者訓練に統合。

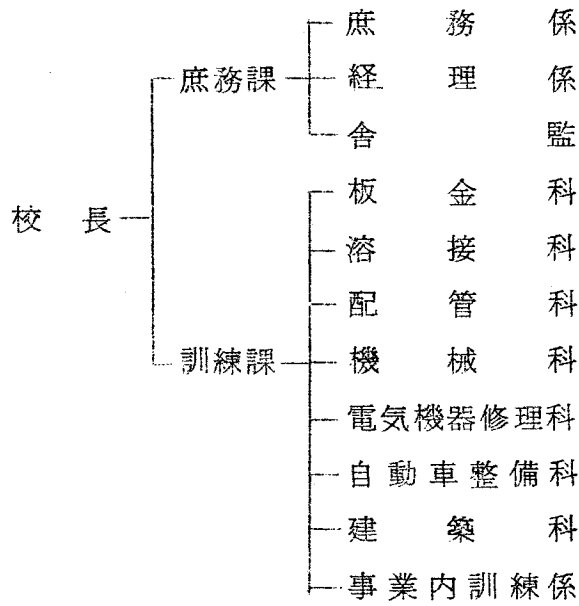
昭和44年10月 職業訓練法の改正により、雇用促進事業団長崎総合高等職業訓練校と改称。

昭和47年 4月 高等訓練課程（第一類）配管科、（第二類）自動車整備科、溶接科、建築科訓練開始。

4-2-2 図



4-2-3 組織



4-2-4 職員構成

区分	定員	現 員	
		配 置	正 規
業務職員	1	校 長	1
	2	課 長	2
	11	事 務 職 員	8
	1	嘱 託	4
	15	計	15
職業訓練職員	3	板 金 課	4
	3	溶 接 科	3
	3	配 管 科	3
	4	機 械 科	4
	4	電気機器修理科	4
	3	自動車整備科	3
	2	建 築 科	3
	1	事業内訓練	1
	23	計	25
	38	合 計	40

4-2-5 表 訓練コース

区分 訓練科別	定員計	養成訓練				能力再開発訓練		成人訓練
		計	高等訓練課程		職業転換訓練	事業内委託訓練		
			一 1年	二類 2年				
機 械 科	50	50	25	25			(140)	
板 金 科	50	50	25	25				
電 気 機 械 科	50	50	25	25				
配 管 科	40	20	10	10	20	(250)		
自 動 車 整 備 科	30	30			30			
溶 接 科	30	30			30			
建 築 科	40	40			40			
合 計	290	270	85	85	100	20 (250)		

4-2-6表 電気機器科指導員構成

指導員	年齢	経験年数	指導員以前の経歴
A	46	12	電気機器補修
B	37	12	電気設備補修
C	33	6	大学(電子工学)
D	26	4	大学(電気工学)

4-3-1表 年次別応募・入校者数

年度	応募者数		入校者数	
	一類3科計	電気機器科	一類3科計	電気機器科
41	312	83	63	20
42	250	55	70	25(2)
43	99	35	68	24(2)
44	285	93	73	25(3)
45	308	101	77	27(6)
46	266	67	81	25(1)
47	167	45	80	24

()内高卒者人数

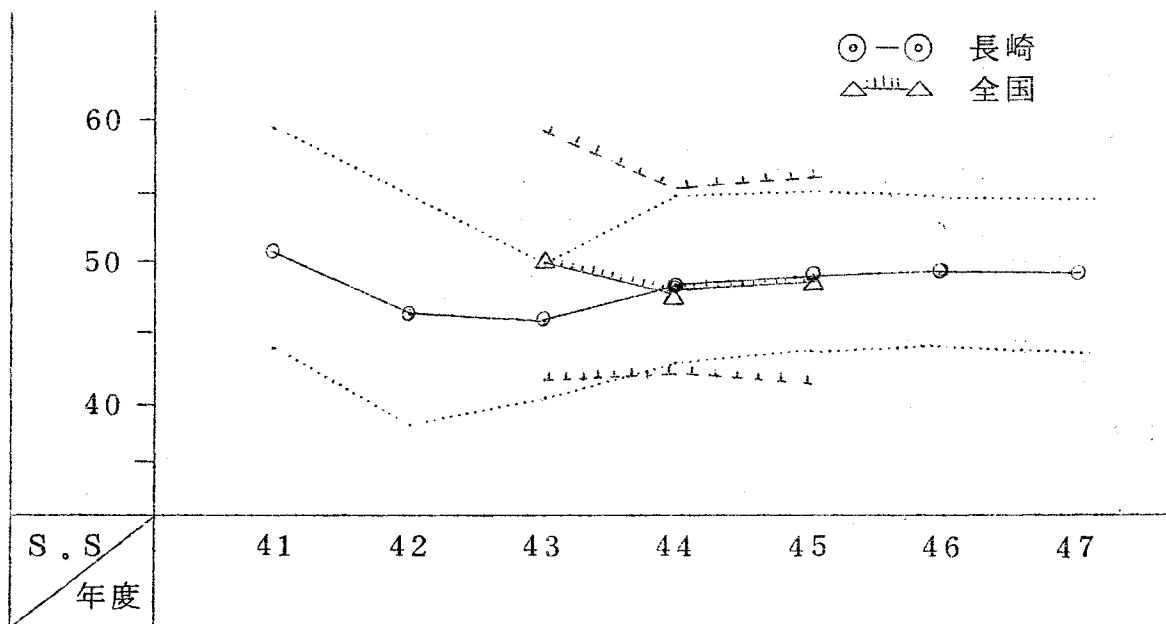
4-3-2表 年次別市郡別応募者数

市郡別	45		46		47	
	一類3科計	電気機器科	一類3科計	電気機器科	一類3科計	電気機器科
諫早市	94	27	56	10	45	11
大村市	48	14	43	11	30	10
長崎市	10	0	21	2	15	5
北高来郡	71	27	48	12	31	7
南高来郡	42	14	53	14	23	6
その他	43	19	45	18	26	6
計	308	101	266	67	167	45

4-3-3表 年次別入校生知能偏差値(中卒のみ)
「新制田中B式知能検査第1形式」

年度	N	\bar{X}	S D	段 階 (人)		
				35~44	45~54	55~64
41	20	51.0	7.7	4	11	5
42	22	46.3	8.0	7	11	4
43	18	45.7	4.4	8	9	1
44	23	49.5	5.6	4	13	6
45	16	50.9	5.9	2	9	5
46	24	50.4	5.2	2	16	6
47	24	49.7	5.9	5	15	4

4-3-4図 入校訓練生のSS年次変化(中卒)



(点線はS Dの値を \bar{X} より上下にとったものであるが、単位はSSに無関係である。全国平均は「総高訓生の素質調査」調査研究報告書№22号による。)

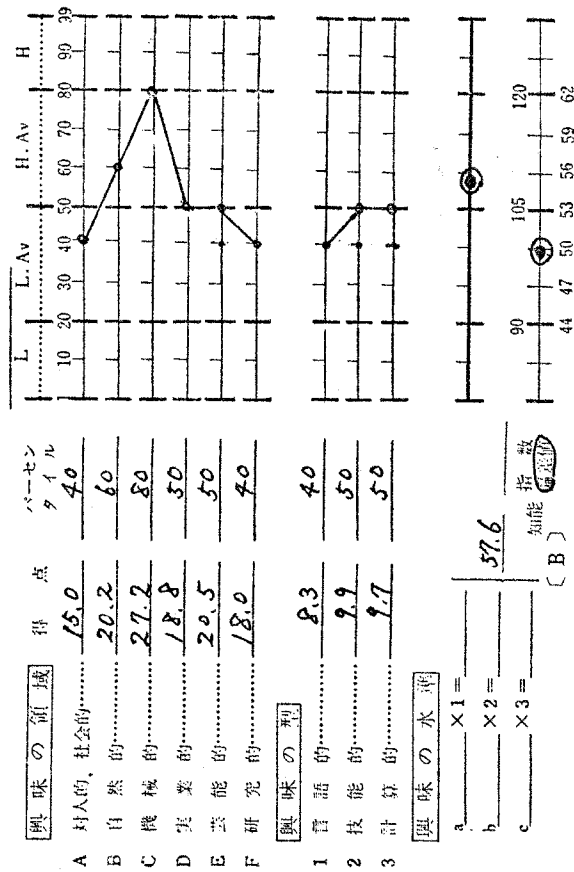
4-3-5表 年次別入校生性向性段階人数(中卒)
「診断性向性検査」

年度	N	超内向	やや内向	普通	やや外向	超外向
4 1	2 0			(20)		
4 2	2 2					
4 3	1 8		4	1 2	2	
4 4	2 3		6	1 2	5	
4 5	1 6		2	9	5	
4 6	2 4		8	1 3	3	
4 7	2 4		5	1 6	3	

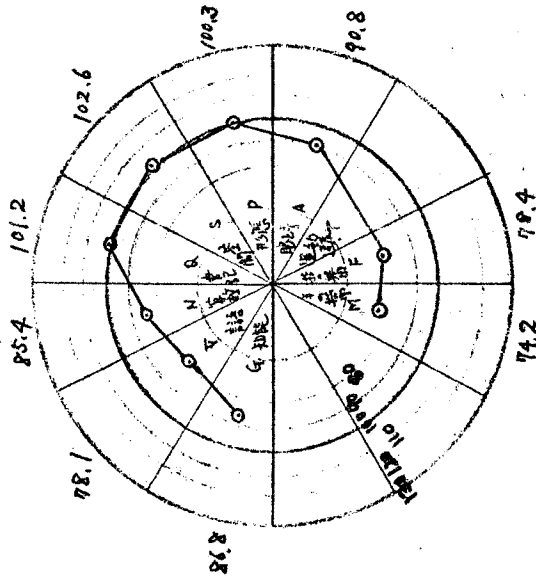
4-3-6表 年次別入校生クレペリン検査段階人数(中卒)
「クレペリン精神作業検査」

年度	N	A		B		C	
		正常型	疑問型	正常型	疑問型	正常型	疑問型
4 1	2 0	7		1 2		1	
4 2	2 2	6	3	9	1	1	2
4 3	1 8	5	1	6		6	
4 4	2 3	1 1	1	7	2	2	
4 5	1 6	5	2	7	1	1	
4 6	2 4	3	1	1 6	1	3	
4 7	2 4	6		6	3	2	1

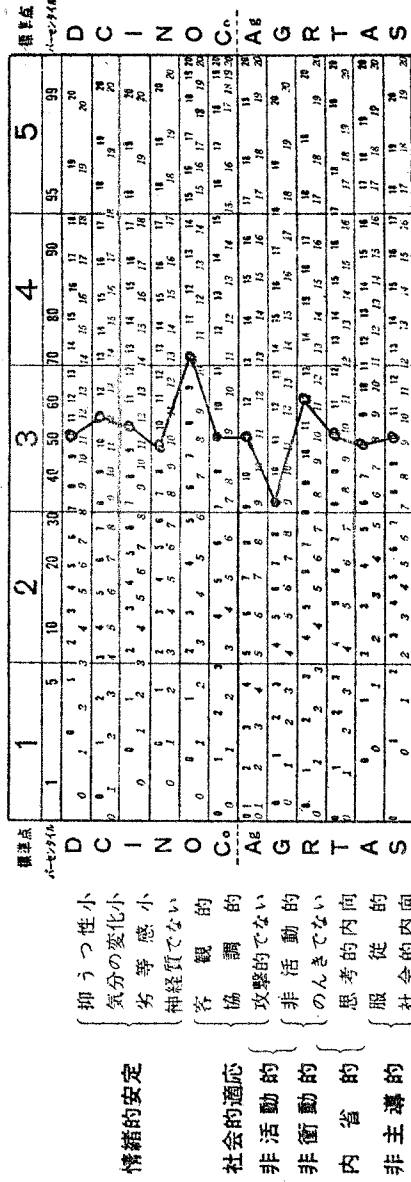
(A) 職業興味プロフィール



(C) 職業適性、特性



(D) 矢田部ギルフォード性格検査プロフィール



(注) 本プロフィールの見方に関しては「総高訓生の素質調査」

調査研究報告書 622号を参照されたい。

4-3-8 表 47年度入校生 Y-G 検査類型別分布 (%)

類 型	A=58.3	B=16.7	C=0	D=8.3	E=16.7
典 型	A=25.0	B=12.5	C=0	D=0	E=0
準 型	A'=16.6	B'=4.2	C'=0	D'=0	E'=4.2
混 合 型	A''=16.7	AB=0	AC=0	AD=8.3	AE=12.5

科研式中学校学力診断検査 数学 3年 SD=4.1

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール (段階)
第1部 (1-7) 数	1.6	2学期 3学期	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
第2部 (8-15) 数 図形関係	3.9	3学期	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
第3部 (16-24) 図形	1.6	2学期 3学期	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
得点合計	7.1		
学力偏差値	39.5		
[学力偏差値段階] (○をつける)			
			44.7以下 35-44 45-54 55-64 65以上
			1 2 3 4

4-3-10 図 47年度入校生読書力プロフィール SD=11.9

得点表		読書力発達グラフ (D)			
種 口	粗点	換算点	年齢別読書力発達グラフ (D型)		
1. 速読	(正答)(割合) R/40	(正)×3=57.3	小4	小5	小6
2. 読解	28.7	×2=57.4	小4	小5	小6
3. 読字	そのまま	45.6	小4	小5	小6
4. 単語	20.5	×3=61.5	小4	小5	小6
総 得 点	221.8		小4	小5	小6
読書力偏差値	42.6		小4	小5	小6
種 定 値		種 定 値	読書力偏差値		
種定値 = 正答数 × 100 / (正答数 + 誤答数)		種定値	読書力偏差値		
種定値 = 82.8		種定値	読書力偏差値		
評価段階		評価段階	読書力偏差値		
[読]		[読]	読書力偏差値		
[確]		[確]	読書力偏差値		
[参考の1] 読書年齢 (R.A.)		[参考の2] 読書指数 (R.Q.)	読書力偏差値		
13年8月		88	読書力偏差値		

阪本式読書力診断テスト (D型)

4-3-11表 47年度入校生レディネステスト結果(中卒のみ)

	全体※	長崎	t検定
平均	23.7	19.8	※※
S.D	7.4	6.4	2.414
人数	139	24	

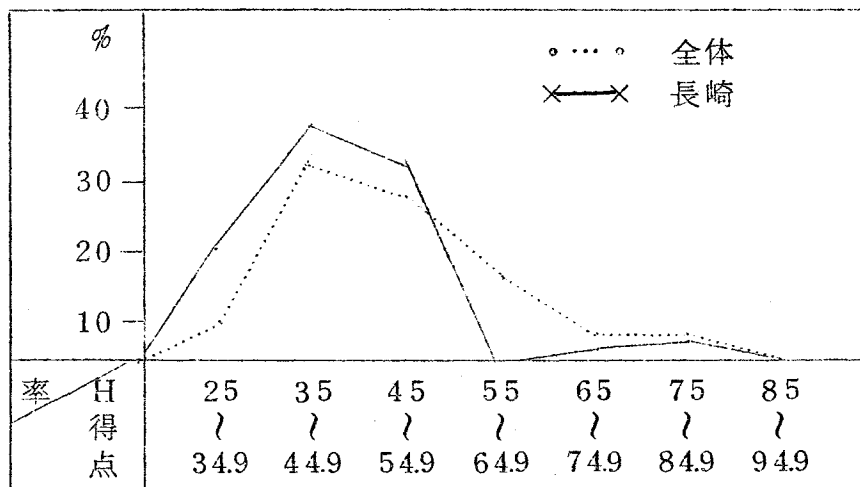
[テスト内容・方法]

中学校理科及び技術・家庭科の教科書分析により、4肢選択の50問のテストを作成力量検査にて行ない1問1点で採点した。

※ 長崎総訓他5校の計

※※ 2%水準で有意差あり

4-3-12図 47年度レディネステストH得点分布(中卒のみ)



平均42.6点

4-3-13図 47年度入校生レディネステスト項目別プロフィール(中卒のみ)

項目数	平均正答率				
	20	30	40	50	60
記号;単位(9)					
回路;回路計(14)					
オームの法則(5)					
電力(量)(4)					
変圧器;機器(7)					
その他の知識(11)					

4-3-14表 テスト間相関係数 (47年度中卒入校生)

	知能	数学力	読書力	レディネス
知能		0.04	0.21	0.20
数学力			0.18	0.20
読書力				0.13
レディネス				

4-3-15表 年次別入校生体位（中卒）

年度	実施月	人数	項目	身重(cm)	体重(kg)	胸囲(cm)
4 1	9	1 9	平均	1 6 3.5	5 1.7	8 1.1
			標準偏差	5.6	6.2	4.4
4 2	4	2 2	〃	1 6 1.2	4 8.9	7 8.1
				6.2	6.1	3.7
4 3	1 0	1 7	〃	1 6 4.9	5 3.3	8 1.9
				6.2	7.3	5.5
4 4			〃			
4 5	4	1 7	〃	1 6 5.7	5 6.7	8 4.1
				5.5	5.6	3.3
4 6	5	2 3	〃	1 6 3.5	5 2.5	8 1.5
				5.3	5.3	4.1
4 7	5	2 3	〃	1 6 4.3	5 2.8	8 2.0
				5.3	4.7	4.6
	県平均		1 6 3.8	5 2.5	8 0.8	
全国平均		1 6 5.5	5 5.0	8 2.3		

※ 「長崎の統計」 12 №170 72より高等学校男子1年生の結果

※※ 文部省「学校保健統計調査」より

4-3-16表 年次別入校生体力診断テスト結果(中卒)

年度	人数	項目	(回) 反復 横とび	(cm) 垂 直 と び	(kg) 背 筋 力	(kg) 握 力	(cm) 伏 臥 上体そらし	(cm) 立 位 体前屈	(指数) 踏 み 台 昇降テスト
41	20	平 均	35.3	50.2	121.4	31.6	59.1	16.9	69.2
		標準偏差	1.9	6.0	23.2	6.5	5.6	3.4	12.9
42	21	"	35.3	49.9	123.2	27.7	57.3	16.8	73.5
			2.0	5.1	22.6	6.9	6.1	4.0	11.5
43	19	"	33.8	49.7	118.6	35.1	54.0	11.2	68.3
			2.6	7.1	23.4	6.6	8.6	3.9	12.3
44	22	"	36.6	48.3	140.8	39.4	59.1	14.6	74.1
			3.2	5.5	30.2	6.6	6.1	4.5	9.5
45	20	"	38.1	53.8	124.1	37.9	58.7	16.1	65.5
			7.2	8.1	14.9	6.5	8.6	5.5	10.9
46	23	"	36.0	49.9	106.9	39.6	58.5	14.4	73.6
			2.3	6.2	21.8	5.9	5.6	4.7	11.7
47	22	"	37.4	51.0	129.3		59.5	13.1	
			3.3	3.8	19.0		6.1	3.9	
	※ 全 国		41.1	55.3	126.2	42.0	55.4	14.6	66.4
			4.8	7.5	23.7	7.0	8.2	5.6	11.8

※ 昭和47年度「体力運動能力調査報告書」文部省体育局より

4-3-17表 年次別入校生運動能力テスト結果(中卒)

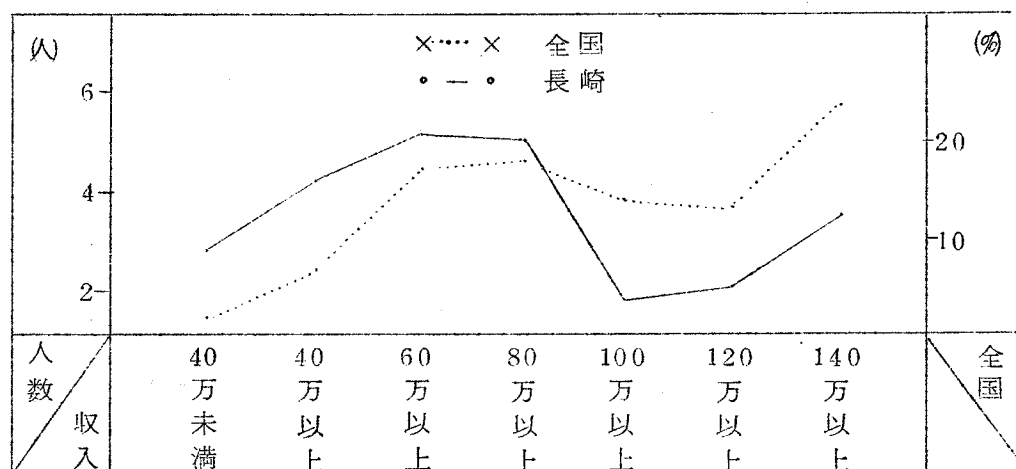
年度	人数	項目	(秒)	(m)	(m)	(回)	(秒)
			50m走	走り巾とび	ハンドボール投	懸垂 腕屈伸	持久走
41	20	平均	7.33	4.28	25.0	6.6	361
		標準偏差	0.45	0.42	3.9	3.4	51.5
42	20	"	7.70	4.08	23.9	6.7	323
			0.50	0.36	2.6	2.7	99.7
43	19	"	8.01	3.71	21.5	4.8	383
			0.49	0.41	3.3	2.6	31.2
44	22	"	7.70	4.12	24.4	5.7	355
			0.50	0.41	3.0	2.5	19.8
45	20	"	7.51	4.22	25.1	7.8	388
			0.52	0.49	3.8	3.7	34.5
46	23	"	7.52	4.02	25.8	6.3	376
			0.43	0.45	3.6	2.7	17.7
47	23	"	7.49	4.16	24.3	6.0	407
			0.25	0.37	2.9	2.7	38.2
	※ 全国		7.6	4.27	26.2	7.3	363
			0.51	0.46	4.3	3.7	30.8

※ 昭和47年度「体力運動能力調査報告書」 文部省体育局より

4-3-18表 47年度入校生の保護者の平均収入(中卒)

	収入	年	収	月	収
保護者	75.5万	5.7万			
世帯	95.8万	7.4万			

4-3-19図 47年度入校生の保護者の年収段階分布(中卒)



(注) 全国分布は昭和45年10月に調査したものである。

「総高訓生の家庭環境調査」調査研究報告書 28より

4-3-20表 訓練校入校動機

昭和43年入所生 総訓を志望した動機	昭和47年入校生 訓練校に入校しようと考えた理由は何ですか	(10月調査)	(4月調査)
イ。自分で総訓を選んだ	ア。自分が行こうと思つていたので	8	1
ロ。先生に総訓をすすめられた	ワ。兄貴が入つていて、「あの学校は良い、将来にやくだつ」	2	
ハ。親に総訓をすすめられた	ナ。あんでいつていましたので入りました	4	1
ヘ。技能者になりたかつた	カ。技術を身につけるため	9	1
	キ。技術を身につけようと思つたから		2
	ク。なにか技術を身につけようと思つたから		1
	ケ。早く技術を身につけようと思つたから		1
	コ。技術を早く見(身)につけたかつたから		1
	ク。技術を身につけて就職したいから		1
	ケ。技術を身につけ就職できるから		1
	コ。技術を身につけりつばな技術者になるため		1
	カ。技能を身につけるため		1
	キ。早く職を身につけたいと思つたから		1
ニ。中卒のままです職するのは不安だつた		3	
ホ。中卒のままです職するのは淋しかつた			
ト。家業を継ぐために必要だつた			
チ。就職するのに有利だと思つた		4	

<p>リ. 高校は経済的理由で志望しなかった</p> <p>ス. 高校を受けて失敗した</p> <p>ル. 高校に合格したが<u>訓練校が良かったためやめた</u></p>	<p>ウ. ためになると思った</p> <p>キ. 将来性がある</p> <p>ノ. 将来やぐにたつ</p> <p>オ. 将来のため</p> <p>ク. 職業のため、いいと思ったから</p> <p>ヤ. 職を見つげようと思ったから</p> <p>マ. いろいろなることをするのが好きで、小さいころからして たのしんでいたために、もつといろいろなることを覚えたく、 また、しかくを持つことによつていろいろな職につくことが できるため。</p> <p>ケ. 佐世保がなかつたので</p> <p>フ. 自分にあつていていると思つたから</p> <p>コ. 自分がこの訓練校に向いていていると思つたから</p> <p>エ. 他の学校は、ただ教科書などで知るだけだが訓練校は、 いろいろ物を使つて知られるので、よく理解できると思 つたから</p>
--	--

(注) 43年度調査は上記11項目を印刷したものに○をつけることを求めたもの。
47年度調査は自由記述である。

4-3-21表 電気機器科選科動機(自由記述)

昭和47年入校生	(4月調査)
電気機器科を選んだ理由は何ですか	
イ. すきである	1
ロ. 好きだった	1
ハ. 好きで選んだ	1
ニ. 電気が好きだから	1
ホ. 電気科が好きだから	1
ヘ. 電気をいじるのが好きだから	1
ト. いろいろなものをいじるのが好きだから	1
チ. 電気がおもしろい	1
リ. 電気にきょうみがあるから	2
ヌ. 電気にきょうみがあったから	1
ル. 電気にきょうみをもったから	1
ヲ. 親の意見と電気が好きだから	1
ワ. 将来性と自分も好きだから	1
カ. せんぱいのすすめと、自分なりの考え	1
ヨ. 友だちが電気だったから自分も電気をえらんだ	1
タ. ともだちが電気ずきだったんで、ほくも訓練校に入校しようと 考えた	1
レ. 父が電気工事をしているので、父とそうだんしたけっか、電気 機器科を選んだ	1
ソ. 自分の家の近くの人が電気会社につとめているので、なんとな く電機(気)機器科に入った	1
ツ. あまりわからなくても電気が良いと思って、それに、自分で組 立てられる(電気類)	1
ネ. 今は電気を使うことが多いから	1
ナ. 電気関係の会社にはいりたいと思ったから	1

ラ. 将来電気店をひらきたいと思ったから	1
ム. 電気の仕事をするから	1
ウ. 電気工事の免許をとりたいと思ったから	1
キ. これから先は電気をつかつたものが出てくると聞いたし、実際 電気があらゆる日常生活にとりいれられているため、電気ならば ゆうりになると思ったので	1
ノ. 機械もいいがこれからは、機械より電気を利用するものが多く なりつつあるので、そのため電気に関する知識をつけておきたい から選びました	1

※

4-3-22表 年次別電気工事士試験合格者数(中卒のみ)

入校年度	1 年 次		2 年 次		高 圧	合格者数 受験者数
	学科	実技	学科	実技		
4 1	—	—	1 3	9		—
4 2	—	—	1 0	7		—
4 3	—	—	?	1		—
4 4	4	3	9	7		0 / 4
4 5	9	6	6	2		0 / 5
4 6	1 2	2	?	1 1		3 / 7
4 7	2	1	1 3			

※ 取得して修了している。
従来高卒者は全員電気工事士資格を

(中卒平均)

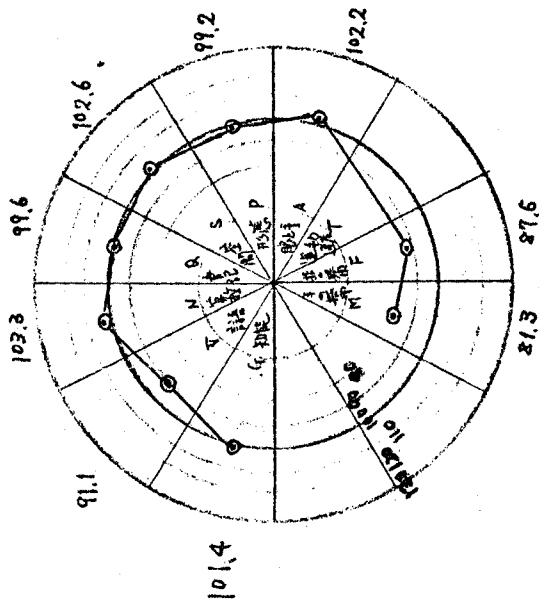
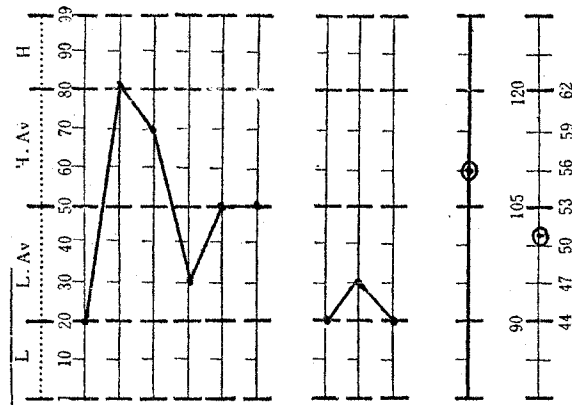
(A) 職業興味プロフィール

興味領域	得点	パーセント
A 対人的、社会的	14.1	20
B 自然的	24.5	30
C 機械的	26.9	70
D 実業的	15.1	30
E 芸術的	19.6	50
F 研究的	21.0	50

興味の種類	得点
1 言語的	7.4
2 技能的	9.0
3 計算的	9.0

興味水準	得点
a X1=	66.6
b X2=	60
c X3=	

(C) 職業適性、特性



(D) 矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	1	2	3	4	5							
パーセント	5	10	20	30	40	50	60	70	80	90	95	99
D	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
C	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
I	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
O	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
C	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
C	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
G	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
R	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
S	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
各観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
非衝動的
内省的
非主導的

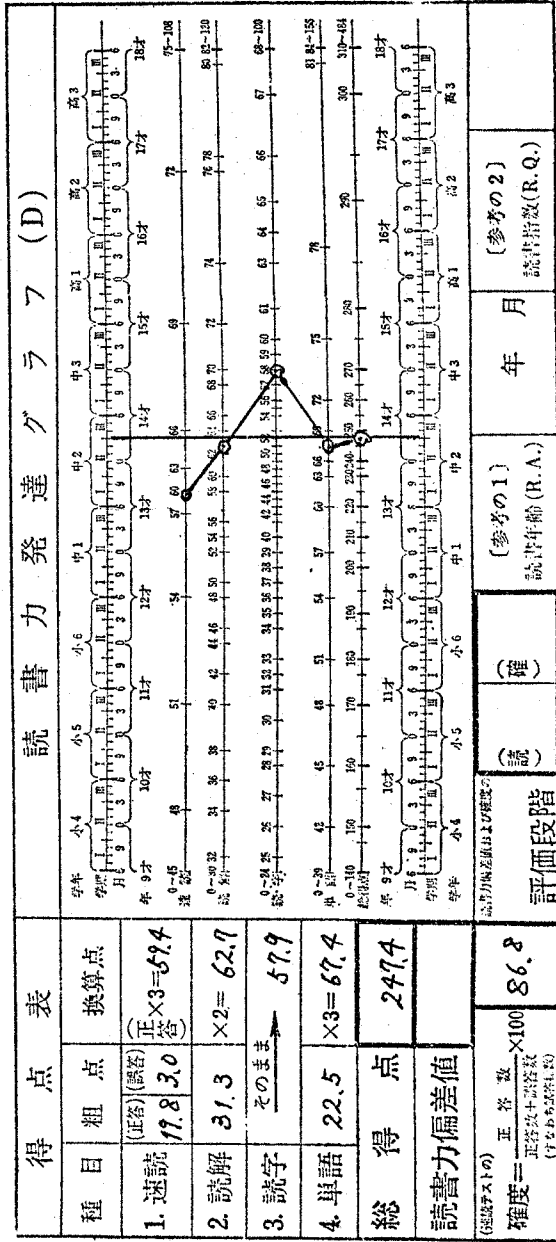
抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質的
非協調的
攻撃的
活動的
衝動的
内省的でない
主導的

情緒的安定
社会的適応
非活動的
非衝動的
内省的
非主導的

4-3-24表 46年度修了生Y-G性格検査類型別人数

類 型	A=3	B=3	C=1	D=2	E=2
典 型	A=2	B=2	C=1	D=1	E=0
準 型	A'=1	B'=1	C'=0	D'=1	E'=1
混 合 型	A''=0	AB=0	AC=0	AD=0	AE=1

4-3-25図 46年度修了生読書力プロフィール(中卒のみ)



4-3-26表 46年度修了生アチーブメントテスト結果(中卒のみ)

	全体※	長崎	t検定
平均	36.8	33.4	1.501 ※※
S.D	9.3	6.0	
人数	138	18	

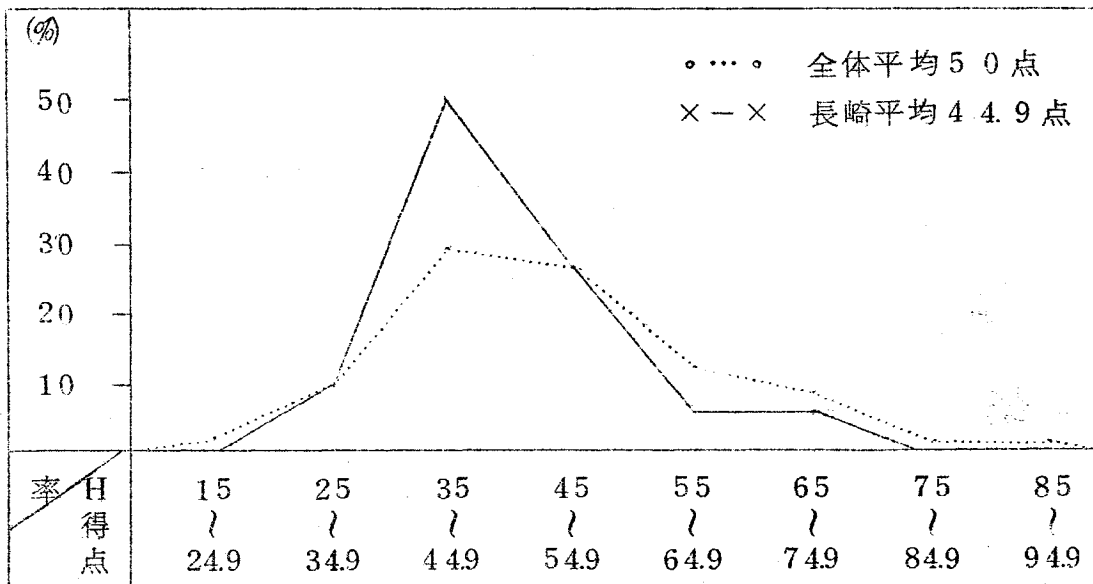
(テスト内容・方法)

5肢選択の問題100問を力量検査にて実施し、1問1点で採点した。

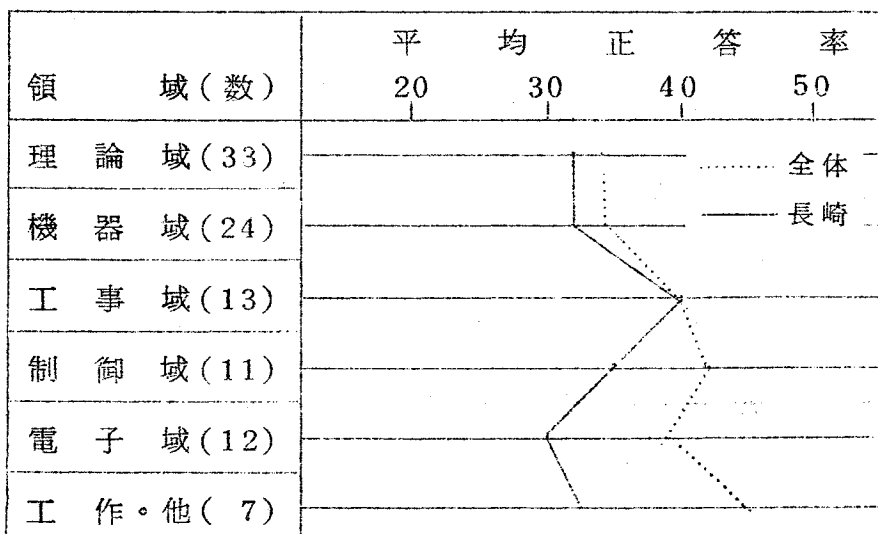
※ 長崎総訓の他6校の計

※※ 有意差なし

4-3-27表 46年度修了生アチーブメントテスト日得点分布(中卒のみ)

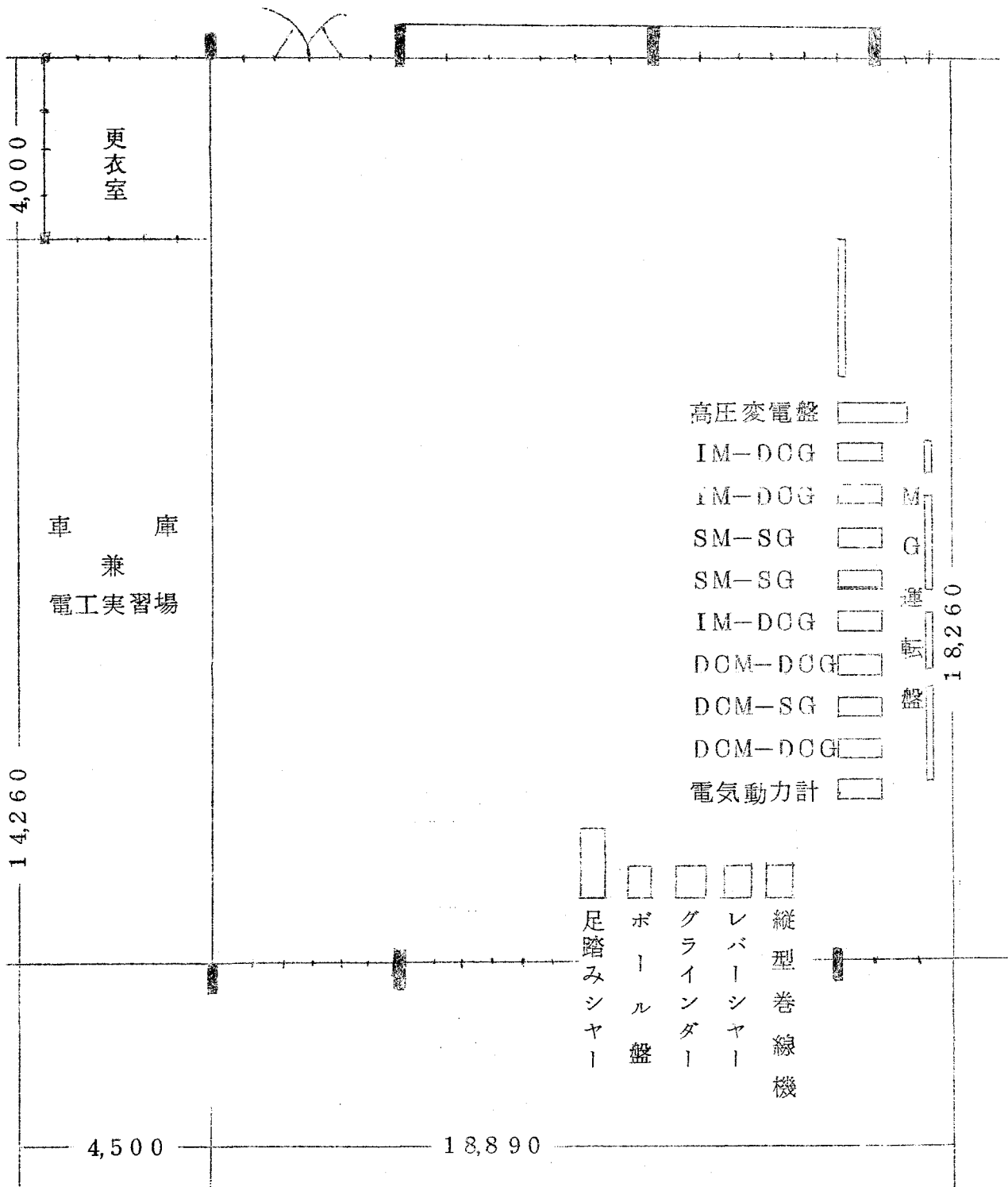


4-3-28表 46年度修了生アチーブメントテスト領域別プロフィール(中卒のみ)

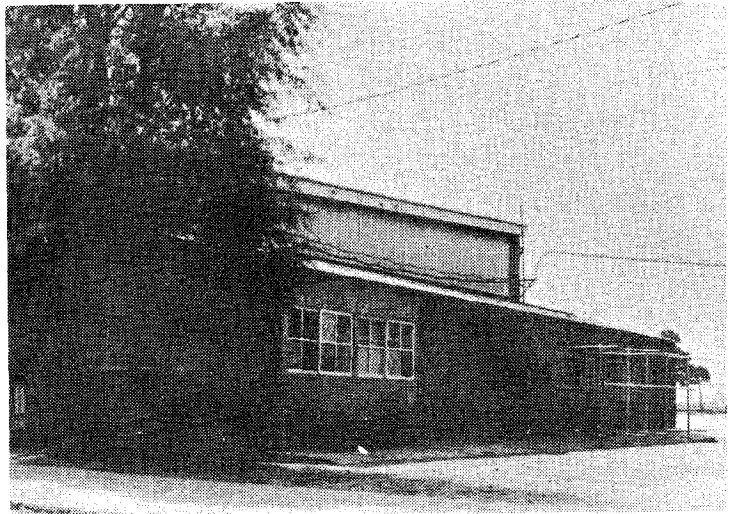


4-4-1 図

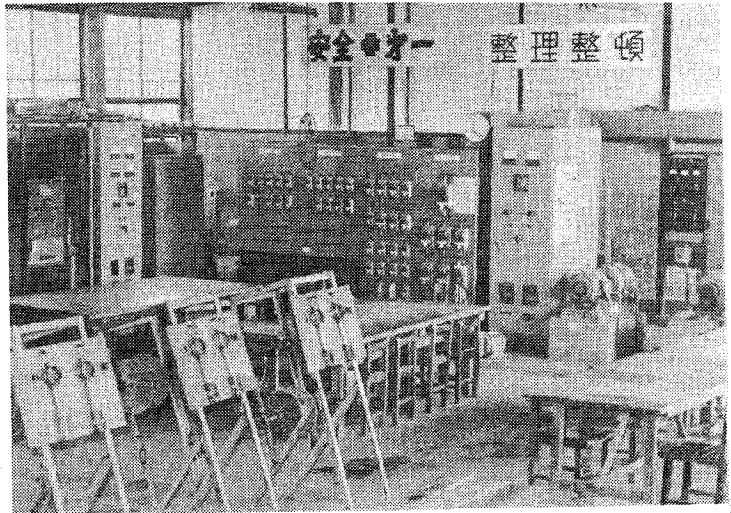
電気機器科実習場配置



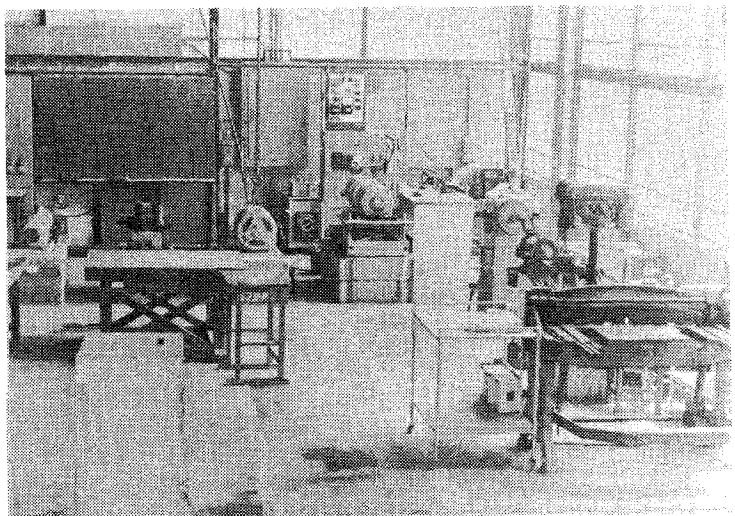
4-4-2 図
電気工事実習場兼車庫



4-4-3 図
実習場 (a)



4-4-4
実習場 (b)



4-4-5表 主な設備の基準と充足状況 (S.47, 3現在)

種別	名称	摘要	30人を1訓練 単位として訓練 を行なう場合	現有数量・摘要
建物 その他の 工作物	教室		50 m ²	1クラス1教室
	実習場		430 m ²	338 m ²
	電気工事実習場		100 m ²	64 m ² (車庫兼用)
	高電圧実習場		33 m ²	無し
	測定実習場		33 m ²	無し
	工具室		20 m ²	20 m ²
	更衣室		20 m ²	18 m ²
	倉庫		26 m ²	無し
	運転用配電盤	MG盤、AC盤、DC盤 電動機運転用	4式	2式
	実習用配電盤	標準形	6式	2
機 械	パルス回路実験 装置	パネル展開 部品プラグ イン方式 トランジスタ パルス 真空管パルス安 定化電源	2式	0
	実習用家屋	30 m ²	1式	0
	絶縁試験設備	50 KVA (油試験可能)	1式	1
	試験用発電機	直流 三相交流	2台	2台
	試験用変圧器	1~20 KVA	2台	2
	誘導電圧調整器	単相2~10 KVA 三相2~10 KVA	4台	2
	気中しゃ断器	6KV 50A 50MVA 2a2b付き	1台	1
	油入しゃ断器	6KV 50A 50MVA	1台	2
	整流器	セレン、タンガ、水銀又 はシリコン	2台	2
	低周波発振器	20HZ~20KHZ 10HZ~100KHZ 出力計アツテネータ付き	3台	1
試験用発振器	100KHZ~30MHZ	2台	1	
パターン発振器	カラーバー又はドットバー	3台	0	
スイープ発振器	テレビ第1~第12チャ ンネル FMラジオ	6台	2	
オシロスコープ	標準形 テレビ用DC~ 500KHZ	6台	2	

シンクロスコープ	0.01~10V/cm DC~10MHZ	3台	3台
コーラツシユブリツジ	0.01~50.000Ω	3台	2
ホイートストンブリツジ	せん形 0~1,111,000Ω	5台	1
ダブルブリツジ	0.0001~11Ω	3台	1
巻線機	電動機用及び変圧器用	15台	9
乾燥器	三相200V 15KW	1台	1
油ろ過機	0.4KW	1台	1
バランス試験機	1~20kg	1台	0
絶縁油試験機	50KW	1台	1
電気動力計	標準計	1台	1
標準積算電力計	20A	1台	1
抵抗線ひずみ計	標準形	1台	0
光度計	分光形又は等輝度形	1台	0
電動機	单相0.2~0.4KW 三 相かご形0.75~5.6KW 三相巻線形7.5KW 三 相整流子形1.5~3.7KW	24台	13
発電機	三相交流 直流分巻き 直流 複巻き	10台	7
変圧器	直流1~5KVA 三相3~5KVA ネオン用 ベル用	16台	10
ラジオ受信機	各種	5台	5
テレビジョン受信機	カラー及びモノクローム	5台	1(モノクローム)
拡声機	携帯用 標準形	1台	1
テープレコーダ	携帯用 標準形	2台	1
旋盤	心間距離500~800mm	1台	0
足踏みシヤ	切断長さ1,000mm	1台	1
レバシヤ	切断長さ200~300mm	1台	1
卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	2台	1
両頭グラインダ	といし車径200~300mm 集じん機付き	2台	1
電気ドリル	0.2~0.4KW	4台	1
空気圧縮機	1.75KW	1台	1

4-4-7表 昭和46年度実習費決算内訳（1・2年含）

機 器 名	数	摘 要	電機科利用教科目	区 分	支 出 額
スライド映写機	1	訓練校設備	工 作 法	※ 測定実験	3,440
16mm映写機	1	〃		機器実習	61,201
O・H・P	1	〃		工事实習	73,415
テープコーダー	1	電気機器科訓練 用設備である	英 語	制御実習	79,494
ラ ジ オ	1	〃		電子実習	0
テ レ ビ	1	〃		工作実習	16,572
				※※ その他	23,851
				計	257,973円

4-4-6表 視聴覚機器整備・利用状況（47年3月現在）

※ 理論域の実験のみではない

※※ 各実習に使われ明確に区分しにくいもの

4-5-1 教育・訓練の目的と方針

1. 目 的 本校は職業訓練法に基き、人間として価値ある人生を築き得る有能な技能労働者の養成を通じ、社会経済の発展に寄与することを目的とする。
2. 訓練方針
 - (1) 訓練は職員と訓練生との相互信頼の確立が最も必要な前提条件である。
 - (2) 職員は厳訓無処罰に徹し、訓練生に対する責務を自覚し、常に創意工夫し、訓練の充実とその効果の確保に努める。
 - (3) 訓練生は訓練について、実際には自己訓練であり、自己指導であり、自己努力であることを正しく認識する。

4-5-2 総括目標昭和45年4月入校

知識技能について全国同一技能照査（技能検定における回転電機組立て及び変圧器組立て、2級技能士に準ずる程度）に合格し得る。

そのほか電気工事士としての一般的業務と自動制御装置等電子回路のうち基礎的なものについての取扱いができる。

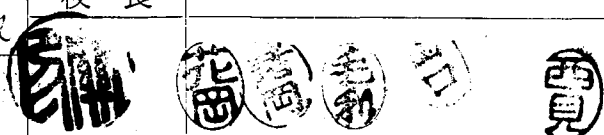
4-5-3表 1年次使用教科書

書名	発行所名	編著者名	使用科目
社会	雇用問題研究会	労働省職業訓練局	社会
工業数学	同上	同上	数学
物理化学	新文書院	同上	物理・化学
初等電気英語	電京電機大学	妹川喜一	実用外国語
電気理論Ⅰ	同上	大熊栄作	電気理論
電気計測	同上	同上	測定及び試験法
電気機器〔Ⅱ〕	雇用問題研究会	労働省職業訓練局	電気機器
電気機器〔Ⅲ〕	同上	同上	製図
電気機器〔Ⅱ〕	同上	同上	材料
電気工事士教科書	日本電気協会	電気工事士教育委員会	配電及び配線設計
同上	同上	同上	法規


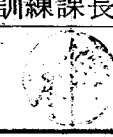

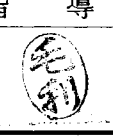
4-5-4表 2年次使用教科書

書名	発行所名	編著者名	使用科目
社会	雇用問題研究会	労働省職業訓練局	社会
工業数学	同上	同上	数学
電気理論Ⅱ	東京電機大学	田中健一郎	電気理論
電気計測	同上	大熊栄作	同上
送配電	同上	池田市寿	配電及び配線設計
電気機器〔Ⅱ〕	雇用問題研究会	労働省職業訓練局	電気機器
電気機器〔Ⅰ〕	同上	同上	電気応用(Ⅱ)
電子工学	オーム社	中山章	電気応用(Ⅰ)

訓練日誌

4月16日 木曜日 天気 晴		校長			
訓練生名		里内明德			
時限	科目担当	訓練課題・訓練事項	計 累 時 間	科目担当者の所見	
1	理論 講義	直並列接続	7 80		
2	" "	"	8 80		
3	英語 西見	Lesson 1 Electricity etc	2 20	今後毎週 1 lesson 進め 予定でいる。	
4	測定 講義	計器の動作原由分類	3 20		
5	" "	指示計器の階級用途分類	4 20		
6	製図 実習	用器画法	5 50		
7	" "	"	6 50		
遅刻・早退・欠席		なし			
訓練生の感想		^{初めての} 寮生活で淋しさを痛感した。故郷を離れた せいかもしれない。自分が一入であって、一入でないとい うことを寮生活で初めて体験をした。			
指導員の所見		淋しさを淋しとは自分自身の気持ちの持ち方で決まるとい う事を、務めて淋しい見出しが多く残る様には、多くの友達を つ下さい。			
備考		若、時に寮生活は体験出来た良いことでは、寮生活 に意義をもちたい所がある。			

訓 練 日 誌

機 長		訓練課長	担 当 指 導 員		
			 		
〇月 〇日 金曜日		天気 晴	訓練主名 山口 一彦		
時限	科 目	訓練課題・訓練内容		在籍訓練生 〇名	
	担当指導員			氏 名	
1	数学 山口	加圧送理のメカニクス		欠席者	
2	数学 毛利	配電盤の外形寸法		〇名	
3	〃	〃		〃	
4	数学 山口	電磁気学基礎の復習		遅刻者 金保 村田	
5	〃	〃		〇名	
6	〃	〃		早退者	
7	〃	〃		〇名	
訓練生の感想		数学の時分機械の故障の修理は、この分野は難しからず、 修理をしていくと、その仕組みが分かっていく。見ると かなり理解して、いよいよ、この分野			
指導員の所見		電気技術は勉強あるのみ、実技と理論を組み合わせ たい。意欲をもった頑張りを、(課長)			

補足資料1 カリキュラムに関係した指導方法

直接的にカリキュラム分析には関係ないが、カリキュラム評価と表裏の関係にある指導方法に関して吟味することは重要であると考え。そこで、長崎総高訓の場合のカリキュラムに関係した指導方法の実情について、簡単に述べてみたい。

1. 一般的な指導方法

a) 学 科

学科における指導方法は、ほとんどテキストの講義であり、板書を利用した説明がなされている。

次のような訓練生の感想と指導員の所見があった。

S. 4 6. 6. 4 (金)

Y Y君 みんなやる気がないようだ。しゃべってばかりいて授業に身がはいらないようだ。

T-D しゃべっているから授業に身が入ってないというのはおかしい。問題演習の時は黒板に出てやる人以外は大いに他と討論して解決法を見つけるのも一法であろう。勿論、別な話ではいけないが。

今日は私が見ている限り皆良くやっていたようです。問題もよく解いてくれました。

この指導員の所見に学科の指導における基本的な立場がよく示されている。

b) 実 習

実習の一部門としての工具当番について、次のような感想と所見があった。

S. 4 5. 7. 8 (水)

F T君 週番で実習がされなかったので気がかりです。こんな時はどうしたらいいでしょうか。

T-A 工具当番も大切な実習の1つです。工具室でできる作業は工具室でやって下さい。2名でやっているのですから、ひまな時は1名は作業場

に出て実習をするのもよく、又、他の人のする作業をよく見ておく事もよいと思います。

工具室内での作業には異論もあろうが、ここで工具当番の実習の考え方を明らかにしている。

2. 各領域の特徴的な指導方法

a) 理論域

理論域の実習とは測定実験が主であり、これはグループ実験から個人別実験へと移行する。一般的に実験にはレポートはつきものであるが、この点に関して次のような指導員の所見があった。

S. 45. 4. 14 (火)

T-Q レポートの提出は次の計測実技の時までに行なう事。

レポートの記録はこれ自身教育的効果が大きい。しかし、水準をどこまで要求するかにもよるがこれをまとめることは中卒訓練生にとっては容易でない。

S. 45. 4. 22 (水)

T-Q レポートは必ず決められた日に提出すること。

この日は電気測定の時間を2時間使って、レポート記入法についての説明を行なっている。この点と先の14日の所見とを見ると、レポートの書き方についての説明のない段階でレポート提出の指示がなされている。

6月までの実験は指示されたテーマについての実験をグループごとに行なっていたが、12月以降は「プール制実験法」によるものであり、様相が異ってくる。この点について次のような訓練生の感想と指導員の所見があった。

S. 45. 12. 4 (月)

S T君 実習は実験に入った。

T-Q 計測器具類は大切に取り扱い扱って下さい。通電の前には必ず点検を受けること。

このように個人別実験になると、それだけ指導員の注意もゆき届かぬようになるので、実験の失敗による危害を防止するため、又、回路を十分に理解

しているかを再認識させるために、通電前に指導員のチェックを受けることを義務づけている。この実験法についての次のような感想と所見があった。

S 4 5. 1 2. 1 5 (火)

S T 君 実験は一人でしないといけないのでわかりにくい。

T-Q 自発的に実験が出来るようになることが目的です。自分で考え、どうしても解らない所を習うようにして下さい。

自分で解るようになると楽しくなります。それまでがんばってやりなさい。

T-D 協同実験と比較してどういう点が個人でやる実験ではわかりにくい
か聞きたい。2年生はむしろ個人でやる方が理解が良いと言う意見が多かった。

ここでプール制実験法の目的についてその考え方が表わされている。又、西見は従来のグループ制実験法を批判した後に次のように書いている(註)。

「そこでプール制実験法なるものを考え、訓練生は原則的に各自1人で実験することにしたのである。具体的には、実験テーマをクラスの員数の2分の1程度準備し、それをプールしておく。そして訓練生は原則として1人で(もし協力者が必要なら他に依頼してもよい)そのプールされた実験テーマをある期間内に完了するよう、どこから始めてもよいようにしておくのである。そうすれば、各自の納得いくまで、何回も実験出来、他から自分のペースをじやまされることなく、問題の解決等が出来るのである。そして一つの実験が終わるごとに報告書の提出を義務づける。」

西見が述べているように、プール制実験法には幾つかの優れた点がある。しかし、プールされたテーマと学科との関連がまだ充分でない欠点がある。テーマが理論域のみとは限らないが、今後の課題として、テーマの数を増しそれをいくつかの組に分け、それらの組の実験を行なう期間をより短かく定

(注) 西見安則 「電気機器科実技訓練におけるプール制実験法について」

昭和47年8月 長崎県職業訓練研究会発表要旨

めることにより、プールされたテーマと学科がより関連があるようにすべきである。

以上のように理論域の実習の指導方法としては、実験→指導員のチェック→レポート提出というプロセスが、協同実験でもプール制実験にても重点の置き方は異なるがとられている、といえる。

h) 機器域

機器域の実習には2つの側面がある。1つは変圧器や電動機などの分解—巻線—絶縁—組立てという作業であり、他の1つは種々の電気機器の特性測定という実験である。

前者は指導員が作業方法を簡単に説明し、その後は訓練生にまかせ、指導員は班を巡回指導し、注意を与えたり質問を受けている。又、全体に対して注意を徹底する必要がある場合は全員を集め指導している。

次のような感想と所見があった。

S. 45. 10. 12 (月)

ST君 実習をする人と、しない人の差がひどい。

T-Q 今までは個人別の訓練が主でしたが、現在やっているのは班単位の作業ですね。各自の役割分担をきめて責任を持ってやりとげて下さい。

ここで指導員が指摘している「個人別の訓練」とは、工事域・工作域についての実習のことである。又、ST君が述べている感想は、1台の機器に割り振られた訓練生数が多すぎるという点が原因のように考えられる。

実習作業に関するレポートについての次のような感想と所見があった。

S. 45. 10. 29 (木)

YM君 モーターのレポートがあまりすすまなかった。

T-Q レポート提出の遅い人に限って作業中ぶらぶらしている様です。真剣に取り組んで下さい。

このように機器の実習の場合も、ある一連の実習が一通り終るとその実習内容に対するレポートを義務づけている。これは実習結果の整理・作業の意味付けのために役立っているようである。

機器特性実験に関して次のような指導員の所見があった。

S. 46. 12. 22 (水)

T-Q レポートの提出を急ぐこと。一年の締めくくりのためにも、あと三日を有効に使うように頑張ろう。

これは2年次の後半に行なっている、主に機器の特性測定実験のレポート提出についての指示である。2年次の実験も先に紹介したプール制実験法にて行なっているが、レポート記録は2年生になっても不得手であるようである。

c) 工 事 域

工事域の訓練の主要なものは、本論でも度々明らかにしてきたように、電気工事士資格及び、高圧電気工事技術者資格を取得させるためのものである。しかし、この訓練の指導体制としては決して組織的なものとは言えない。例えば、7月18日までの学科を見ても、この主要な教科を電気工事に経験のある指導員が担当し、他の教科では先の教科に充分な関連を持たせた内容とはなっていない。又、高圧工事士に関する指導も、1指導員の個人的指導によるものである。

学科の指導方法にしても特に変わったものはないが、6月以後は練習問題の解答—説明という型態がとられ、更に試験がさしせまった段階になると総合模範試験も実施されている。

高圧工事士準備においても似たようなものであるが、特に訓練生が解いた問題の解答手順・その考え方を発表させ、その後指導員が補足説明するという型態もとっている。

実習においては作業の速さ・正確さ・美しさについての視点から、除々に課題を高度にして「反復訓練」の型態で行なっている。この実習に関して次のような感想と所見があった。

S. 45. 4. 22 (水)

TG君 実習のときぬれぬれ(注 ぐずぐず)している。

T-Q 一回の作業時間が長くなったので待時間は有効に使うようにして下

さい。

9月の実習は総合的な課題となっているため、実習設備のスペースの面で1度に数人のみか練習できず、又、一課題の練習時間が30分前後となるので、練習のできない訓練生にとってはその間は待時間となっている。

実習の進捗についての次のような感想と所見があった。

S. 46. 9. 6 (月)

NK君 雨がふっていやな感じがして実技がスムーズにいかなかった。

T-Q あせるな、一部の人が早すぎるだけだ、全員予定通りに進んでいる。

安心して自分のペースで頑張れ。

NK君は、1年次に電気工事士に合格できず、目前にせまった2年目の実技テストに自信がまだつかないようである。一方指導員は自信を持って指導を展開している事がよくわかる。

d) 制 御 域

学科では回路図の見方、読み方の説明にとどまり、特別な指導法というものはない。

実習は個人にて図面を見、その回路を組み立てるのを原則的にしているが、リフト回路のように複雑な回路になると2・3人のグループで行なわせている。次のような実習進捗についての所見があった。

S. 46. 6. 19 (土)

T-Q 個人別実習が多くなる。各班共遅れた者がいると先に進むことができないので全員協力して遅れないように頑張ろう。

ここで指導員が述べている「班」とは、クラスを2分した班のことで、制御域実習の他はプール制による実験を行なっている。又、次のような所見もあった。

S. 46. 6. 23 (水)

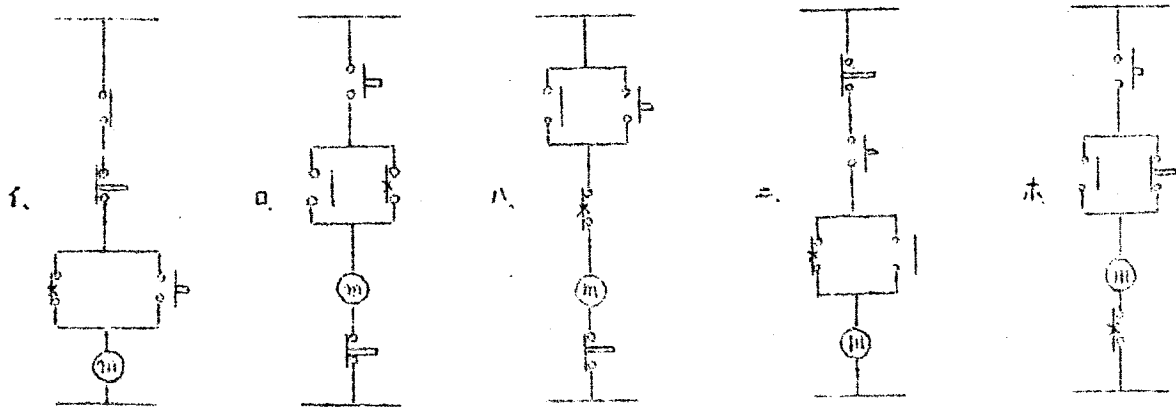
T-Q それぞれ与えられた実習課題に対しては責任を持って当れ、現在の実習は本年一ばいで終ることを目標に。

この二つの所見とも実習課題が個人別に与えられているために生じる実習

進度差を問題にしているものであろう。

昭和47年3月に試行したアチーブメントテスト(註)に次のような問題を出した。

電磁開閉器を用いた三相誘導電動機の起動・停止図の正しい制御回路は



これはシーケンス回路では最も基本的な $N-O P-F$ 回路の制御部についての問題である。これらの図面を見て回路を組み立てることは、恐らくほとんどの訓練生が簡単に出来ると思われる。しかし、上のような問題にした場合、各選択肢に答えた割合は、 $1=6.5\%$ $2=10.9\%$ $3=37.0\%$ $4=23.2\%$ $5=21.7\%$ 無答= 0.7% であった。この問題の長崎だけの正答率は 11.1% とさらに低かった。(正答は3)

この結果は回路設計の弱さ、論理的思考の弱さを示している。つまり回路の各部の機能や意味が充分理解しえてないといえる。長崎の場合、電光掲示盤についての回路は各自に設計させている。しかしこの設計に基づく回路作製は出来るが、なおかつ回路の機能について充分な理解をしていないのだと思われる。

e) 電子域

学科の指導において特別な方法はない。

(注) 田中が自作したものである。詳しくは資料4-3-26を参照いただきたい。

実習の、1年次におけるアンプ・受信機の組み立ては、テレビ等の廃品を利用して、回路図に従がい組み立てさせている。2年次ではプール制実験法に含めてある実験である。1年次の実習の時に次のような感想と所見がある。

S. 46. 1. 21 (木)

S A君 実習が始まると日が短かく感じる。

T-Q 作業におい廻されることのないようにしよう。内容をよく理解することが大切です。

このように完成品が出来る実習に対しては訓練生は強い興味を示す。電気機器科の場合このような完成品を製作する実習が少ないが、この強い動機づけを利用することは重要であろう。

f) 工作域・その他

工作域における学科の中心となっている機械工学概論は機械科指導員により講義されている。又、ヤスリ掛け、計測、ハンマー振り、ハツリ、アーク溶接等の実習は、機械科、板金科、溶接科の実習場へ出向き、各々の専門の指導員の指導を受けている。その他ネジ切り、タップ立て、ポール盤使用法等の簡単な実習については電気機器科にて行なっている。溶接の実習に関して次のような感想と所見があった。

S. 46. 5. 14 (金)

S A君 溶接のビードの置き方は上手になったが、隅肉溶接、立向溶接になるとビードのようにならない。とにかく基礎だけなので、より多く溶接をやって行こう。

T-Q 限られた時間では完全なものは無理です。段付けが出来る事が今回の目標です。

ここで指導員が指摘しているように、工作域の実習は、現場で働く技能労働者として電氣的技術の他に最底限要求される作業を、その作業に遭遇した場合に、以前「やった経験がある」ということが想起できる程度の指導である。

以上の指導方法上の問題点を概括すると、次の2点になる。

第1点は、教育機器の効果的活用までには致っていないという点である。長崎においても部分的ではあるがスライド映写機、16mm映写機、テープレコーダなどの視聴覚機器を使用している。しかしこれらの組織的活用までには致っていない(資料4-4-6表参照)。又、授業においても最も利用価値のあるOHPも電気機器科では未だ利用されていない。又、電気機器科独自の訓練内容に応じた「訓練機器」の考案もなされていない。

又、最近特に研究が進んできたプログラム学習等の導入も考えられていない。

第2点は、訓練生の個性把握が充分ではない、という点である。長崎の場合、今まで訓練生の個性についての種々の調査を行なってきた(資料、4-3参照)。しかし、これらの結果より、1人1人の訓練生の個性を理解し、その個性に合った指導を工夫するという面までには生かされていない。

補足資料2 指導員と訓練生の訓練観

カリキュラムに直接関係しないが、指導員の訓練観を見ることは、カリキュラム編成の考え方を知る上で重要であり、又、訓練生の訓練観を見ることで訓練生が受けた訓練をどのように評価しているかを知ることができる。このため長崎総高訓の場合について訓練日誌に記入された訓練観に関するものを中心に拾ってみたい。

訓練日誌に記入された訓練生の感想や指導員の所見はいままでにも紹介してきた。ここではその中で特に、訓練に対する考えが強くでているものを紹介する。

1. 電気工事士資格取得について

まず、電気工事士及び高圧電気工事技術者の資格取得についての訓練生の感想と指導員の所見を挙げる。

S. 45. 5. 1 (金)

MK君 実技の時、みんな早くできるように一生けんめい練習していた。

T-B 生産現場では「良い品物を安く多量に」生産する事を目標にしています。皆さんも同じです。1日1日の訓練の積み重ねが実を結びます。

S. 45. 7. 18 (土)

YN君 明日は電気工事士の試験なので、皆んな最後のまとめをしていた。

T-Q 全員の合格を祈るだけです。

S. 45. 7. 23 (木)

IK君 工事士のテストに全員合格していなかったのがざんねん。

T-Q 合格率は60%です。昨年と比べると非常によくなっています。あと5名が合格ぎりぎりの人が居たのですが残念でした。

合格確実と思っていた人が2名落ちたのも非常に残念です。

S. 45. 10. 5 (月)

OM君 工事士のテストが終わり何はともあれほっと一息

T-Q 一段階が終ったのです。次の段階に向かってがんばりましょう。

このように電気工事士資格取得は、指導員・訓練生ともが、訓練の目標の大きな1つとしていることがわかる。しかしこの“実力”の世界において訓練生が単なる競争意識にかりたてられていず、同僚への思いやりも強く出ていることがわかる。これは、テスト結果が絶対評価によることもあろうが、前にも述べたように指導員の行き届いた配慮に大きな理由があると思える。そのためか「利己主義」的な言動は全く見あたらない。

しかしここで、どのような万全な指導を行なっても、試験に全員が合格するのはむずかしい。この場合訓練をどのように考えるか、という問題が生じるが、この点に関してB指導員は次のように述べている。

「電気工事士学科テストの合否により、次の段階の工事实習に対する意欲が異なり、同一グループとして実習をやらせても、精度、速度に大きく差が出て、不合格グループは訓練効果が上がらないので、やむを得ない手段として他の実習を行なわせている。」

2年生になって次のような感想があった。

S. 46. 6. 8 (火)

I K君 もう2年生だ、しゆう職先も考えなければならぬと思っていますが、どういふ会社があるのかわからない。

みんなの先頭に立っていきたいと思っているがうまくいかない。

T-Q 就職は10月からです。まず工事士の試験に合格するように頑張ろう。

S. 46. 7. 8 (金)

K K君 工事士はあがりそうもないとみんな口ではいっているけど、やっぱり2年でみんないきずまって、みんなひっしにしている。

T-Q 2年としての面目からも合格したいという気持が良く現われている。最後まで努力すれば合格できる。自信を持って頑張ろう。

S. 46. 9. 2 (木)

T T君 工事士の実技をみんな一生懸命やっていた。落ちる人がいないようにがんばってもらいたい。

T-Q 習得意欲が出て来たので、必ず合格できると思う。今の状態で最後まで頑張れ。

このように1年次での工事士試験不合格による落胆は一次的であり、2年次になってからは再度意欲を燃やしていることがわかる。

S. 46. 10. 1 (金)

S T君 高圧学科は三日にせまってきたので全員合格して欲しい。

S. 46. 12. 8 (水)

S A君 高圧電気工事士も不合格。

卒業も後三ヶ月、社会にでて電気の勉強・実験はあまりできないのでこれからの三ヶ月間を大切に、来年の高圧に頑張る。

T-Q 資格試験は階段を昇るのと同じだ、一步づつ実力を養いながら進んでゆこう。合格、不合格は次の機会への挑戦であり、合格したら次の資格を、不合格だったら次は必ず合格するように努力することが大切だ。

以上のように、電気工事士等の資格取得は電気機器科においては1つの目標として定めることが有効であることがわかる。

2. その他の資格取得について

ここでは電気工事士以外の資格取得に関しての訓練生の感想と指導員の所見を拾ってみる。

S. 47. 1. 26 (水)

HT君 ようせつは面白いようだ。(みんなあがってもらいたい。向井君はとくに。)

T-Q NK技量試験は全員合格するよう頑張れ。1層目と4層目の仕上げが大切だ。真剣な取り組みこそ合格への第一歩だ。

S. 47. 2. 1 (火)

MK君 あと3日で溶接の試験があるのでがんばりたい。

T-Q 一つでも多くの資格を取って多能工として、社会で訓練校卒としての実力を充分発揮して下さい。

このように電気工事士以外の資格取得も一つの目標にしている。ここで指導員が書いているのは、補足資料1で述べた点と矛盾しているようであるが、就職後の職種に直接関係のあるMK君を含めて6名が受験することに対しての激励である。

この他、訓練日誌には表われなかったが計算尺技能検定試験も希望者には奨めている。

3. 実習訓練について

ここでは、実習を中心とした訓練校における技能訓練についての訓練生の感想と指導員の所見を紹介してみる。

S. 45. 7. 29 (水)

SI君 ヤスリ掛けは苦しいけれども、一つのものを作り出す努力は苦しさをわすれさせます。

T-Q 苦しさが喜びに変わる時、技能者として進歩した証拠です。一つ一つの苦しみを乗り越えてりっぱな技能者になりましょう。

S. 46. 4. 26 (月)

MK君 工具箱の製作はひじょうにむずかしかったが、工具箱の形には出来あがったのでうれしかった。

T-Q 完成の喜びは技能者にとって最大の喜びです。この喜びの積み重ねが立派な技能者への道です。

S. 45. 11. 10 (火)

SA君 電気の勉強をやっていくうちむずかしくなる。

T-Q 勉強すればする程奥が深いものです。一生かかっても終りはないものです。与えられた課題を完全に習得していきましょう。

S. 46. 2. 24 (水)

KY君 基本的なことは理解できたと思う。

あと一年で実力をつけていこう!!

T-Q 理解するためには実際に使うことです。実技の時に理論的に考える習慣をつけましょう。

S. 46. 11. 5 (金)

SA君 訓練祭まであと8日間、作品が仕上るのが楽しみだ。皆なで成功したいものだ。

T-Q 日々の訓練の成果を充分に発揮して見学者に「さすが」訓練校だと言われるものにしよう。

S. 46. 11. 14 (日)

NK君 職業訓練というものを、じもとの人々に見てもらい、社会的に認しきしてもらえたらと思う。

T-Q 充分皆さんの力が発揮できたと思う。今後共この協力体制を忘れないように。

以上いくつかの感想と所見を紹介した。これらのように明るい面、積極的な面が大部分であるが、次のような反面も極く一部にあった。

S. 46. 7. 22 (木)

F T君 近頃の実習はちっとも面白くない、というより、やる気がぜんぜんしない。学校に何しにきているかわからない状態である。

T-Q 目的を持って、目的を持った人は一生懸命やっている。君は現在糸の切れた凧のようだ、しっかりせよ。

この時期の実習は制御機及び機器の特性測定実験である。F T君が何故意欲をなくしたかは、不明である。

又、電気の技能に関して次のような感想を書いた訓練生がいた。

S. 46. 6. 12 (土)

S A君 高圧試験もあと4ヶ月あまりになった。参考書を読んで見ても、理解に苦しむ。幸い実習で誘導電動機の特性その他の実験をやっているので、参考書とともに理解していこう。理解できることも技能のうちではないだろうか。

T-Q 電気では実験を通して理解して行くことが一番良い方法です。そのためには、実験のレポートをよくまとめて理論との関係を特に深めていこう。

S A君は彼なりの「技能観」を持っているようである。理解することが、「技能」のうちであるということは、電気の場合その傾向が強いと言えるだろう。それは兎も角、1年と2ヶ月という職業訓練の中で、訓練生がこのような自分なりの「技能論」を述べることができるということは、注目に値する。S A君がこのような感想を書くのも、指導員の考えに影響されているとも考えられる。

4. 川柳に表われた訓練生の印象

新職業訓練法の「高等訓練課程の養成訓練の教科等に関する基準」は、普通学科の中に「国語」を定めている。この国語の教科において、長崎総高訓では川柳指導を行なっている科があるが、電気機器科もその中の1つである。

次は2年次のわずか14時間という中で作詩した川柳を、修了時にあたって

訓練生が編集・製本した「川柳」の中から拾い集めたものである。これらは訓練生の日々の訓練の心境をよく表わしており、又訓練の一端を知る一助になると考え、その極く一部を紹介することにする。

ノツプ打ち響き渡るは板の音	稲	田	和	幸
ノツプ打ち真夏の中でマメづくり	下	釜	隆	好
将来を夢に打ち込む作業かな	金	原	建	吾
第1に自負と責任守ること	網		孝	志郎
材料はきちんと置こう事故防止	川	田	義	登
皆思う安全願うが事故減らず	里	内	明	徳
工具さん今日もたのむと感謝する	向	井	賢	一
安全と愛護で守る実習場	藪	田	幸	造
乱雑に置かれた工具がおこってる	大	石	通	博
やりとげてホツと一息ストーブへ	本	川	和	敏
寝ぼ助やゆかねばならぬ実習へ	姓		不	詳
今年こそ取ろうと思え電工を	高	島	敏	生
工事士をやはりとりたい2年生	浜	口	高	行
女いてキリツとしまる野郎ども			〃	
三度目は全員上がる工事士に	橋	本	利	弘
電線を迷って接ぐ配電盤	村	田	幸	生
片すみにけられたナツト箱に入れ	山	口	和	快
友愛と技の進歩が手をつなぎ	中	野	勝	好
友愛は友と一緒につくるもの	山	口	正	則
実験に打ち込む友のたのもしさ	山	口	安	博
雨降れば釜の鳴き声聞こえるよ	塩	塚	武	士
安全を確認も一度再点検	高	島	敏	生
先輩の教えのもとに胸はずむ	藤	岡	豊	美
ふるさとを離れ都会に心とぶ	淵	山	春	義
年明けて見られぬ母のバラの花	山	口		勝